

373

96=

徵古館陳列品略解

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁹ 1 2 3 4 5

始



徵古館陳列品略解

373-96

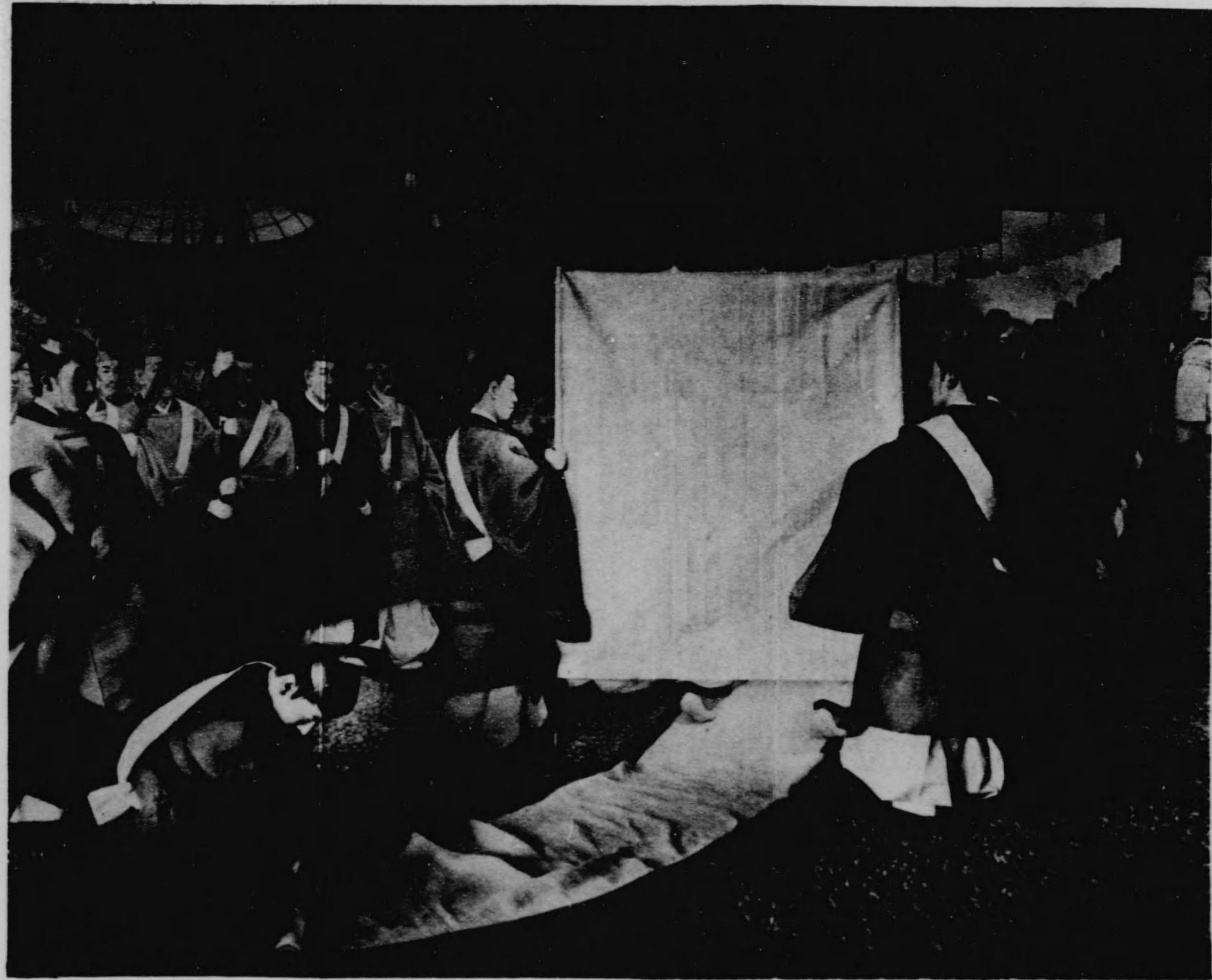


徵古館陳列品略解

大正
11. 8. 18
内交



圖ノ式御遷宮大神大皇



凡 例

- 一、本編ハ徵古館陳列品中特殊ノモノ及各類ニ亘リ一二點ヅ、ヲ選ビコレニ略解ヲ附シタリ。
- 一、本編ニ掲ケタル列品中一時ニ陳列スルコトヲ得ザルモノハ便宜時々陳列換ヲナスコトアルベシ。
- 一、本編ニ掲ケタル物品ハ撤回中ト雖モ差支ナキ限り特別觀覽ノ需ニ應ス。
- 一、本編ニ記セル列品ノ番號ニ列品附札ノ番號ト同一ニシテ對照ノ爲ニ附シタルモノナリ陳列ノ順次ニアラズ

陳列排置

- 第一室 風俗人形、武器
- 第二室 武器、馬具
- 第三室 風俗人形、服飾
- 第四室 服飾、家什、調度、文房具、樂器、
遊戲具、度量衡貨幣
- 第五室 神宮遷宮關係資料、輿車船舶
- 第六室 古文書、畫圖、典籍、金石文
- 第七室 石器時代遺物、上古時代遺物
- 第八室 神宮祭器祭具、神宮諸祭畫圖
神宮寶物
- 第九室 神宮撤下御物

徵古館陳列品略解

第一室

風俗人形

一八三 上古風俗 男子 佛教渡來以前ノ風

髪ヲ美豆羅ニ結ビ櫛ヲ挿シ、耳輪及頭玉ヲ懸ケ、左衽ノ衣ニ禪ヲ穿キ、鈴鏽ヲ著ケ、足結ヲナシ、鞆ヲ著ケテ沓ヲ穿ク。腰ニハ絲帶ヲ以テ頭椎太刀ヲ佩キ、葛鞆ニ野矢ヲ盛りタルヲ負ヒ、左腕ニ柄ヲ著ケ丸木弓ヲ携ヘ、所謂弓弭ノ調ヲ獲ントテ朝獵ニ出立ツ體ヲ示ス。

一八四 上古風俗 女子 同前

髪ヲ頭頂ニ結束シテ後世ノ島田髷ノ如クシ、額櫛ヲ挿ス。耳輪頭玉男十二同シ。手ニハ手玉ヲ懸ケ衣禪ヲ著シ、裳ヲ纏ヒ、領巾ヲ懸ケ、席上ニ座シテ前ニ麻笥ヲ置キ、棕ヲ持チテ織麻ヲ巻ク。所謂手末ノ調

ナモノアル體。

一八五 奈良朝時代風俗 男子

五位文官 朝服 隋唐ノ風ニ倣ヒタル時

冠 襪 頭巾 淺 緋 袍 白 袴 半臂 著ケ、銀 裝 革 帶 以テ束ネ、白 襪 著ケ烏皮履ヲ穿キ、淺 緋 袋ヲ佩ビ牙笏ヲ把リテ立テル文官朝參ノ體ヲ示ス。

一八六 藤原時代風俗 男子

五位文官 束帶 前代ノ風俗漸ク化シテ日本式トナリタル時

冠 單 大口 袴 表 袴 下 襲 緋 袍 著シ、石 帶 以テ束ネ、魚 帶 佩ビ、帖 紙 檜 扇 懷 中 シ、笏 ヲ 把 リ、淺 杏 子 穿 チテ步 マント スル體、以テ前代ノ朝服ノ變化セシヲ示ス。

一八七 藤原時代風俗 女子 典侍(正裝)

髮ヲ結ゲ平額ヲ加ヘ釵子及櫛ヲ挿ス、コレヲ寶髻ト稱シ古制ノ禮裝ナリ。袴、單、五 衣、表衣、唐衣 裳ヲ著ケ、帖紙ヲ懷中シ、手ニ檜扇ヲ翳シテ步マントスルノ體。中古藤原時代以來上流女子ノ威裝ヲ示ス。

一八八 中古風俗 賤夫旅行

折烏帽子ニ布直垂四布袴ヲ著シ、菜屨ニ草鞋ヲ著ケ、見世鞘掛ケタル腰 刀ニ懸 袋ヲ付ケタルヲ佩ビ、擔 唐櫃ニ表 差 袋ヲ取付ケタルト、行器ニ鬚籠ヲ添ヘタルトテ荷ヒ、蒲葵扇ヲ携ヘタル體。以テ當代旅行ノ困難ナルタメ必要ノ具ヲ携ヘタリシト、卑賤ノ風俗トヲ示ス。

一八九 鎌倉時代風俗 童 貴族

髮ヲ高ク上ケ髻ニテ結ビ、濃單、袴、半尻ヲ著ケ、頸ニハ懸守ヲ懸ケ、淺杏子穿キ、穂杖ヲ以テ穂ヲ打タントスルノ體。古代ノ遊戲ノ今日ニ類スルモノアルヲ示ス、藤原時代以來足利中世迄ノ風大凡此ノ如シ。

一九〇 鎌倉時代武裝 胴丸

引立烏帽子ニ鉢巻シ、鍔直垂ニ腰巾ヲ著ケ、双鞆ニ引手ノ片籠手ヲ差シ、胴丸ノ體ヲ著シ、一方白鐵形 打タル兜ヲ戴キ、糸巻太刀ヲ佩キ、腰刀ヲ差シ、節影ノ征矢ヲ盛リタル逆頰籠ヲ負ヒ、二所藤ノ弓ヲ 握リ、扇ヲ把リ、熊皮ノ貫ヲ穿キ、床几ニ懸リテ憩フ體、源平以來足利中世迄ノ將士大凡此ノ如シ。

一八一 足利末世武裝 當世具足

月代ヲ剃リタル髮ヲ亂シテ鉢巻シ、具足下著ニ小袴ヲ著シ、素懸威ノ具足ヲ著シ、兜ヲ高紐ニ懸ケ、茜色ノ差物ヲサシ、陣大小ヲ挿シ、右手ニ采配ヲ高ク振り、左手ニ大身箱ヲ携ヘテ立チタル體、以テ前代ノ甲冑以下兵器ノ沿革ヲ知ラシム。

四

武器

三七一 旗 模造

一旒

原品石清水八幡宮舊藏源義家所用ト稱スルモノ、模造ニシテ旗竿ハ足利時代ノ式ニ據ル。

三六六 突 棒

一本

三六六 刺 又

一本

三六六 袖 搦

一本

以上三種ヲ合セテ之ヲ三道具ト稱ス。徳川時代ニ人ヲ捕フルニ用ヒタル武器ナリ。

三六六 杖

一本

三六六 二鍬形馬印

一本

棒ノ先ニ分銅及ビ鎖ヲ付ケ人ヲ捕フルニ用ヒシ寄道具ノ一ナリ。

一八三 鎗

一筋

馬印ハ主將ノ馬側ニ建テ、其ノ居所ヲ示ス標ニシテ足利時代ノ中頃ヨリ用ヒタリ。

三六六 真 鉾形鎗

一筋

三六六 鏡 鎗

一筋

三六六 十文字鎗

一筋

石谷峻三氏出品
廣瀬忠三郎氏出品

五

古代ノ鉾ノ變化シタルモノニシテ、源平時代ニハ手鉾行ハレ、後ニハ手鉾モ廢シテ、遂ニ一種之ニ類スルモノヲ造リ出シ、遠クニ突キ道レヨリ續ト名ヅケタルモノニシテ、南北朝時代ヨリ書中ニ見ユ。爾來多年ノ研究ヲ積ミテ種々ノ變形ヲ生ジタリ。

- 三 手 鎗テ 一筋 同 上
- 三 片 鎌 鎗カ 一筋
- 三 直 鎗ス 一筋 石谷峻三氏出品
- 二 笹 穂 鎗サ 一筋 杉原光雄氏出品
- 二 大 身 鎗オ 一筋 同 上
- 二 五 雞 刀 一振

起原詳カナラザレドモ奥州後三年記ニ其名見エ、源平時代戰場ニ用ヒタルコト諸書ニ見エタリ。元龜天正以後ニ至リテハ主トシテ僧侶婦人ノ用トナリ、徳川時代ニハ特ニ婦人ノ武器トナレリ。

(一) 矢

トガリヤ、カブラヤ、ヒトテジンドウカズジンドウヤダイジンドウ、フノキ、ノザシヤ、サシヤ、クリヤ、マトヤ、シンノイスイヒキヤ、サンジヨ、矢箭、鳴鑼矢、一手神頭、數神頭、矢代神頭、角木、野差矢、差矢、繰矢、的矢、眞犬射引目、産所引目、征矢、野矢

十二種

尖矢鳴鑼矢ハ服ノ表指ニシテ大事ノ物ヲ射ルニ用ヒ、神頭ハ又矢頭トモ書ス、草鹿アリム、丸物等ノ的ヲ射ルニ用ヒ、矢代神頭ハ矢代ヲ振ルニ用ヒ、角木ハツクラ巻藁等ヲ射ルニ用ヒ、差矢繰矢等ハ遠距離ノ的ニ用ヒ、引目ハ笠懸、犬追物等ニ用ヒ、又産所ノ覺障ヲ退治スルニ用ヒ、征矢ハ籠ノ中差ニシテ戰争ニ用ヒ、野矢ハ狩獵ニ用ヒタリ。

毒 打 根

一本

徳川時代ニ尻籠ニ入レ又ハ駕籠ノ内、坐右等ニ置キテ不慮ニ備ヘシモノ。

毒 白猪空穂

一腰

狩獵又ハ旅行等ニ籠ヲ損セザランガ爲メニ用ヒシモノニシテ足利時代ニハ騎馬ノ人ハ専ラ平時ニ之ヲ用ヒタリ。

元 射 籠 手

一枚 關 保之助氏出品

古來甲冑ヲ著セザル時弓射ルニ左手ニ差シテ用ヒシモノニシテ狩獵、流鏑馬、犬追物等ニ用ヒタリ。

八三 物射モノイ 乘馬又ハ騎射ニ用ヒタリ。

八二 綾アヤ 模造

八三 逆頰サカツラ 籠エヒラ 二模造シテ流鏑馬ニ用ヒタルモノナリ。

八〇 指サシ 籠エヒラ 腰緒サカサマ 武家式正ノ籠ニシテ獸皮ノ毛列テ逆様ニ張りタレバ此名アリ、多ク主將ノ用ナリ。

七九 鐵テツ 砲ポウ 稻富一夢在銘 一腰

七八 鐵テツ 砲ポウ 一挺

七六 砲ポウ 銀葉嵌ギンヂウガシニテ「一ある目あてを知らてみな人のしるもころにはなす鐵砲」眞鍮ニテ「一夢(判)」トアリ。

七五 古靴トモ 上古風俗人形ニ著ク 一枚 御巫清白氏出品

七四 差サシ 物モノ 足利時代末人形ニ用フ 一本 革ニテ作り、内ヲ空シクシテ彈力アラシメ、左臂ニ著ケテ、弦ユビヅルノ手玉テダマ 劍シノ等ニ觸ルヲ防グ。又、靨ヒツニハ木弓ニハ之ヲ用ヒテ矢勢ヲ助クト云フ。

七三 陣チン 笠カサ 小旗又ハ種々ノ飾物ヲ具足ノ背ノ受筒ニ差シテ戰場ノ標識トナセリ。大永ノ頃ヨリ始マル。

七二 陣チン 笠カサ 安政中山田奉行山口丹後守在動中ノ所用ナリトイフ。一蓋

七一 陣羽織チンバオリ 陣笠ハ武士ノ平時馬上ニ用ヒ、又近世足輕アシカゲ中ナカ間等戰爭ニ用ヒタリ。 一領

七〇 陣羽織チンバオリ 陣羽織ハ足利時代末ニ具足羽織ト稱セシモノニシテ、陣中小具足コグツクノミノ時着用セシモノナレドモ、後世ニハ甲冑ノ上ニモ用ヒタリ。本品ハ八代將軍德川吉宗ノ鷹狩ノ時着用セシモノト傳フレドモ信シガタシ。

六九 軍配團扇ケンバイウチハ 一柄 近古戰爭ニ兵士ヲ指揮シ若クハ方位日取等ヲナスニ用ヒタリ。兵學者ハ軍禮ニ用フルモノトセリ。

第二室

武器

三 毛拔形太刀 (傳藤原秀郷所用)

一振

藤原時代衛府ノ官人所用ノ太刀ナリ。莖ハ直ニ柄ノ形ヲ成シ毛拔形ヲ透シタレバ毛拔形太刀ト稱シ、マ
タ革緒ニテ佩キタレバ革緒太刀ト稱ス、本品ハモト伊勢國赤堀村(今三重郡常樂村ノ大字)ニ傳ハリシ
ガ、後山田ノ御師深井氏ニ傳ハリ、寛政五年更ニ豐宮崎文庫ノ有ニ歸シ近年本館ノ所藏トナレリ。
コハコノ種ノ太刀中最古ク且完備セルモノニシテ實ニ稀世ノ珍トイフベシ。但シ鞘包ノ飾損失シ、一ノ
足、纏ノ渡卷^{ハナダ}及ビ帶取ノ莖蒲革等ハ足利時代ノ補足ニシテ最初ハ渡卷ナカリシナリ。

四 藤原秀卿朝臣佩刀考證

足代弘訓自筆

一冊

瀬尾吉重氏出品

五 太刀 (傳源義朝所用)

國寶

一振

伊勢國熊岳金剛證寺出品

源義朝ノ家臣鎌田政家ノ裔野間宗祐ノ寄附スルトコロナリ。宗祐 尾張國知多郡内海ノ人、金剛證寺中

興ノ開山佛地禪師ニ從ヒ來リ止マリテ萬金丹製藥ヲ始メ子孫傳ヘテ今ニ至ル。

三 太刀身

銘兼光

一振

廣瀬忠三郎氏出品

二 打刀身

傳三池典太作

一振

三 打刀身

銘一文字

一振

二 打刀身

傳正宗作

一振

光明寺出品

三 打刀身

銘備州長船祐定作

一振

二 打刀身

銘兼定

一振

三 打刀身

銘二王清(缺)摺上

一振

廣瀬忠三郎氏出品

二 打刀身

銘二王清眞作

一振

三 打刀身

傳關千壽院作

一振

光明寺出品

- 二四 打刀身 銘備州長船祐定 一振 桑原芳樹氏出品
- 二三 打刀 拵付、刀身銘表横山上野大縁 一振 太田光熙氏出品
- 二二 脇差 藤原祐定、裏備州長船住 一振 太田光熙氏出品
- 二一 脇差 拵付、刀身無銘 一振
- 二〇 打刀 拵付、刀身銘兼定 一振
- 一九 脇差 拵付、刀身銘陸奥守大道 一振 重野健造氏出品
- 一八 脇差身 銘表奉納太神宮竹谷九藏、裏嘉永二年正月日桑名住三品義明齋廣房作 一振
- 一七 脇差身 銘井上眞改作 一振
- 一六 脇差身 銘村正 一振 光明寺出品
- 一五 脇差身 銘相州住廣正 一振
- 一四 脇差身 銘名護屋住肥後守秦光代 一振

- 一三 長卷身^{ナガマキノ} 素銅鍔付 一振
- 一二 薙刀身^{ナギタ} 足利時代ニ打刀ノ柄ヲ長大ニシテ長ク卷キテ薙刀ノ如クニ用ヒタルバ此名アリ中卷トモ書クコトアリ。
- 一一 薙刀身 銘美濃守藤原政常 一本
- 一〇 薙刀身 銘岩捲 一本
- 〇九 劍 銘壽命 一本 光明寺出品
- 〇八 長劍 銘表奉納太神宮嘉永乙酉二月日裏仙臺住藤原玉秀 一本
- 〇七 十文字鎗身^{モンヂヤリノ} 銘義國、二目釘、華缺損 一本
- 〇六 印地鎗身^{インヂヤリノ} 竹筒形、一目釘 一本
- 〇五 進物太刀^{シンモツタチ} 古へ印地打ノ争ヒニ用ヒタル故ニ此名アリト云フ。或ハ古代ノ鉋^{カンナ}ノ一種ナランカ。 一振

近古武家ノ儀式ニ於テ、式正ノ太刀ヲ進上スル代リニ用ヒタルモノナリ。

三〇 重藤弓

一張

三〇 試胴具足

一領

兜、三枚張花紙綴、漆塗、所々彈痕アリ。袴、日根野形切付。札、紺糸毛引威、胴、横矧山道花紙綴。鐵鎧地四所、蝶番、草摺ナシ、鐵綿嚙、金具廻捻返シ繩目、鐵杏葉付、胸ニ額形八幡大菩薩、背ニ天照皇太神宮愛宕地藏權現ノ透金物打、錦襦包籠手添。

二〇 腹卷

一領

黒革威、胸白、紅威、草摺白茶二段入、大壺袖色々威、紅茶江二段白ノ七段ナリ。背板ナシ、金具損失後世造ルトコロ。

腹卷ハ鎧ノ一種ニシテ、中古以來用心ノ爲衣服ノ下若クハ上ニ著シ、腹ニ巻キ背ニテ引合セタルモノニシテ袖モナカリシガ、後ニハ將士共ニ戰場ニ用フルコトナリ袖背板等ヲ仕出シタリ。

四四 紺絲威腹當

一領

腹卷ノ畧式ニシテ歩卒ノ料又輕裝ニ用フ。

三五 桶側胴具足

一領

大石義久作

三六 銀象嵌四枚胴具足

一領

ウノハナオドシドウマル

三七 卯花威胴丸

一領

イヨサチドウマル

三八 伊豫札胴丸

一領

ナカエボシカタカド

三九 長烏帽子形兜

一領

傳蒲生氏郷所用

箱書ニ曰。蒲生氏郷奥州ニ於テ百萬石拜領入部ノ時暇乞ニ罷出候處秀吉公ヨリ此ノ兜ヲ下賜セラレタリ。延寶五年六月二十九日云々。

馬具

三三 馬

甲面缺

一組

二三 軍陣鞍

古ハ具裝ト稱セリ。其後中絶シ南北朝ノ頃ヨリマタ行ハレタリ。戰爭ノ時乘馬ニ掛ク。

一脊

八九 水干鞍

軍陣鞍ハ軍陣ニ用ヒタルモノニシテ、前輪高ク、鞍壺深ク、其式後世ノ大壺流ノモノニ存セリ。

一脊

二六七 移鞍

水干鞍ハ通常ノ鞍ニシテ軍陣鞍ニ比スレバ前輪低シ、後世ハ戰爭ニモ用ヒタリ。

一脊

移鞍ノ義ニツキテ諸説アレドモ。神ニ進メタル牽馬ヲ直ニ乘尻ニ移ス時置ク鞍ナレバナリトイヒ、又馬寮ノ移文ニヨリテ出ス馬ニ置ク鞍ナレバ此名アリト云フ

八〇 鞍

青貝蒔繪

一脊

四三 鞍

皆具

一脊

二〇〇 壺

鐵製、奈良手向山八幡宮舊藏

一隻

二〇二 壺

唐草透彫、金象眼入(象眼概脱落)

一隻

二五五 口籠

銅製、牽馬ニ懸タルモノ

一個

二六六 飾馬圖

唐鞍、移鞍、鏡鞍、衝繩、水干鞍ノ五圖ヲ收ム。

一卷

第三室

風俗人形

一八三 中古風俗 男子

貴族

立烏帽子差貫ニ、單直衣ヲ著ケ、坐シテ脇息ニ依リ、手ニ檜扇ヲ携ヘタル體。藤原時代以來足利時代頃迄ノ貴族ノ裝ノ服(常服)ヲ示ス。

一八三 中古風俗 女子

貴族

垂髮ニ紅ノ袴ヲ穿キ、單ニ小袿ヲ重子タルヲ著シ、坐シテ箏ヲ彈ズル體。貴族女子ノ裝ノ服

ナ示ス。

一八四 徳川時代風俗 女子 上流武家盛装

髪ヲかたはづしニ結ビ、白ノ下著ニ赤ノ間著ヲ重子、帯附シテ打掛ヲ著シ、足袋ヲ穿キ、箱世古ニ簪ヲ挿シタルヲ懐中シ、三方ヲ挿テ歩マントスル體。以テ中古ノ小袢ノ變化シタルヲ示ス。

服 飾

三五五 黄櫨染御袍 夏、明治天皇御料 一領

元黄櫨ヲ以テ染メタルニ因リテ名ヅク。紋ハ桐竹鳳凰麒麟ナリ。天子ノ御位袍ニシテ神事ヲ除ク外スハテ嚴儀ニ著御アラセラル。

三五六 黄櫨染御袍 冬、明治天皇御料 一領

三五九 一御齋服 明治天皇御料 一領

御神事ニ著御アラセラル。

三五八 五御表袴 明治天皇御料 一腰

三五九 二御大口 明治天皇御料 一腰

三八五 四白御下襲 明治天皇御料 一領

三五九 五白御單 明治天皇御料 一領

三五七 御直衣 夏、二藍三重襪、明治天皇御料 一領

平常者御ノモノニシテ長ク引キ給フ故ニ御引直衣又ハ御下直衣トモ云フ。下ニハ長キ緋ノ御袴ヲ著ケ給フ。

三五八 御直衣 冬、白地小葵、明治天皇御料 一領

三五二 大元師服御上衣 夏、明治天皇御料 一領

三五三 明治天皇御乘馬服 夏、 一領

八四 小 袢 表白地雲立浦綾、中倍縹、裏蒔黃平絹 一領

上流女子常ニ衣ノ上ニ打掛ケテ著スルヨリ名ケタルモノニシテ、裳、唐衣ヲ着キタル略式ノ時用フ。更ニ略シテハ直ニ內衣袴ノ上ニモ用ヒタリ。

六七 被衣

一領 松田健壽氏出品

三八 狩衣

一領

婦人ノ頭ヨリ被アル服ナリ。昔時ハ貴婦人外出ノ時コレヲ用ヒテ顔ヲ隠シタリト云フ。

古クハ狩獵ニ用ヒタルヲ以テ此名アリ。製服トシテ用ヒ、又神拜ニ白キヲ用ヒテ淨衣ト稱シ、卑賤ハ布ニテ作りタルヲ用ヒテ布衣ト稱シタリシガ、後ニハ織物紋紗等ニテ作り一般上流ノ所用トナレリ。

三九 纈纈裳

一腰

古ハ眞ノ纈纈ヲ用ヒタレド、近代繻ヲ施セリ。本品ハ徳川時代宮中御儀式ニ女官ノ用ヒシモノ。

四〇 絲鞋

一足

絲ニテ編ミタル沓ナリ。幼童及武官舞人ノ用フルトコロ。

四一 御緒太

一隻

大嘗祭ニ天皇ノ召サル、御草履ナリ。

一領

室町時代ニ布直垂ノ紋所及腰紐、胸紐、菊纈等ヲ變シテ素襖ト名ケ、直垂ヨリ下等ノ服ニ作ラレ、江戸時代ニ至リ遂ニ無位無官ノ士人ノ禮服ト定マレリ。

四二 公卿禮服

皆具

模造 隋唐ノ禮ヲ以テ行ハレシ即位禮、朝賀ノ際ニ於ケル公卿着用ノ禮服ナリ。

四三 火事裝束

皆具 松田健壽氏出品

徳川時代出火ノ際士民ノ著セシ裝束。松田家ハ山田ノ師職ニシテ彦根ノ藩主井伊氏ノ祈禱師タリ。本品ハ其ノ拜領品ナラン。

四四 火事裝束

羽織、胸當、石帶

第四室

服飾

一 平 緒

紺地唐組黃鳳凰紋刺繡

一組

武官及帶劍ヲ聽リタル文官ガ太刀ヲ佩ク時用フルモノニシテ、色ハ劍ノ裝飾ニ隨ヒ紺、紫、緑等アリ
其一條ナルヲ續平緒トイヒ、二條ニ分ケタルヲ切平緒トイフ。四位以上ハ唐組ヲ用フ。

二 銀魚袋

魚袋ハ朝廷ノ公事ニ佩用セシモノニシテ、奈良朝ニハ唯當色ノ型ニテ縫ヒタル袋ナリシガ、後ニハ鮫皮
ニテ包ミタルモノトナレリ。三位以上ハ金魚四位以下ハ銀魚ノ飾トス。

一個 石谷峻三氏出品

三 古 幣帖

推古時代乃至奈良時代頃ノ古幣
三十九枚ヲ收ム

一帖

四 古 額

額裝、法隆寺所傳奈良時代ノ古額
三十六枚ヲ收ム

一面

五 武禮冠

一頭 御巫清白氏出品

二〇 石 帶

瑪瑙巡方丸轆打交

一腰

古ハ朝賀、即位等ノ大禮ニ唐風ノ禮服ヲ著スル時武官ノ用フルモノ、明治天皇登極ノ時ヨリ廢セラレ。
石帶ハ朝服ニ用フルモノナリ、古代ハ一條ニシテ金銀玉石等ノ飾ヲ付シ、革帶ト稱セシガ、後ニ一條ニ切
リテ石ヲ以テ飾リタル石帶ト呼ブニ至レリ。石ニ玉、瑪瑙、白石其他犀角等アリ、石ノ形狀ニ巡方
丸轆ノ別アリ、巡方ハ嚴儀ニ丸轆ハ通常ノ公事ニ用ヒ、而シテ巡方丸轆打交ハ嚴儀ニモ通常ニモ用ヒ
得ヘキヲ以テ通常帶ト稱ス。

二一 石 帶

外宮禰宜久志本常庸所用

一腰

久志本常幸氏出品

家什調度

二二 行 器

食物ヲ盛リテ持テ運ブニ用フル器ナリ。

一個

二三 厨子 棚

第三室風俗人形ニ配ス。

一個

二階棚ニ厨子ヲ設ケシモノニシテ、調度類ヲ置クモノ、又厨子ノミナルヲ壺厨子ト稱ス。
二七 打置 鍍金桶形 一個

廣蓋ニ載セタル小袖ノ押ヘナドニ用フルモノ、又打枝トモイフ。其實ノ中ニハ香ヲ藏ス。
二八 櫛子 黒塗、菊桐、片喰ノ紋蒔繪 五個

傳曰、豊臣家什器、足代弘訓ノ家ニ傳來。
二九 木盃 一個

上杉謙信カ勳功ノ將士ニ與ヘシモノ、世ニ春日盃ト稱ス。
三〇 茶壺 模造、故實卷物一卷添 一個

徳川時代將軍家ノ御料トシテ宇治ヨリ進上セシ茶壺ノ様式ヲ模シタルモノナリ。
三一 燈臺 一基

法隆寺形、原物ニハ鏡形ニ兒童ノ眠リタル繪アレバ俗ニ眠燈臺ト稱ス。「照開夢眼觀今古別起灰心對聖賢」

ノ銘アリ。
三二 葛桶 一個

行器ノ一種ニシテ葛ノ輪ヲ繁ク卷キテ造リシ桶ナルヲ以テノ稱ナリ。
三三 脇息 一脚

甲天意絨張、金銅籠透菊桐模様火屋付、地黒塗水ニ葵河骨慮ノ蒔繪、菊桐金紋散、火取香爐同斷、倚懸
ニ蒸爐ヲ裝置セシモノ、一種ノ脇息ナリ。

三四 脇息 第三室風俗人形ニ配ス 一脚

三五 香枕 枕ノ中ニ香ヲ炷ク裝置ヲ設ケタルモノ。 一個

三六 鏡奩 松竹蒔繪裏梨地 一合 御巫清白氏出品

三七 鏡奩 梨地花鳥蒔繪 一合

三八 櫛臺 菊ニ水ノ蒔繪 一個

二〇六 櫛箱 青貝金銀ノ楓蔭繪

二〇七 鏡臺 流水ニ紅葉ノ蔭繪

二〇八 眉作道具

二〇九 黛入

二一〇 鐵漿付道具

二一一 角盥

二一二 化粧盥

二一三 嫁入調度

手ヲ洗ヒ或ハ齒黒メニ口ヲ嗽ケナドニ用フ。後ニハ此角ヲ省キテ耳ヲ付シテ耳盥ト稱ス。

ケシヤウダラヒ

二一四 鏡臺、鏡、手箱、雙六盤、化粧盥、衣桁、手文庫

手拭掛、棹、鐵漿著道具、丸火鉢、硯箱、櫛臺、烟草盆、髮臺、短刀等及其附屬品

十七点 野間 園彦氏出品

二一六 變形獸帶鏡 支那製、徑七寸三分

我が國ノ鏡ハ、上古以來支那ヨリ傳來シタルモノ、若クハ、其ノ様式ニヨリテ、鑄造シタルモノヲ用井
タリシガ、藤原時代以後ハ專ラ内國製ノモノヲ用井タレバ、輸入品ハ、其後漸ク跡ヲ絶ツニ至レリ。
鏡ノ名ハ鏡背ノ模様ニヨリテ稱スルモノナリ。

二一七 雙龍鏡 支那製、徑二寸九分

二一八 內行花紋鏡 支那製、徑五寸三分

二一九 海獸葡萄鏡 支那製、徑三寸一分

二二〇 葡萄鏡 支那製、徑三寸

二二一 狻猊鏡 支那製、徑二寸八分

二二二 八花鴛鴦鏡 支那製、徑三寸九分

二二三 素背燻紋鏡 支那製、徑二寸六分五厘

一面

一面

一面

一面

一面

一面

一面

一面

- 二〇九 素背鏡 支那製、徑二寸九分 一面
- 二一〇 樓閣人物鏡 支那製、徑三寸二分 一面
- 二一一 柄鏡 支那製、銘曰整衣冠尊瞻視、
經三寸八分、柄二寸七分 一面
- 二一二 楕圓鏡 外國製、DASOノ歐字アリ。 一面
- 二一三 菊花雙雀鏡 鎌倉時代、徑三寸七分五厘 一面
- 二一四 草花雙雀鏡 足利時代、徑三寸六分五厘 一面
- 二一五 唐花雙鸞鏡 足利時代、徑三寸七分 一面
- 二一六 龜甲紋雙雀鏡 足利時代、徑三寸七分 一面
- 二一七 鶴龜鏡 德川時代、徑一寸七分 一面
- 二一八 鶴龜松竹鏡 德川時代、徑三寸九分 一面
- 二一九 鶴龜松竹鏡 德川時代、銘天下一對馬、徑二寸七分 一面

- 二二〇 柄鏡 桐紋付、銘天下一青 一面
 - 二二一 二神四獸鏡 支那製、漢末 一面
 - 二二二 山吹蝶鳥鏡 藤原時代、徑三寸四分 一面
 - 二二三 網紋雙雀鏡 殘缺、藤原時代、徑凡二寸五分 一面
 - 二二四 松鶴鏡 藤原時代、徑三寸四分 一面
 - 二二五 山吹雙雀鏡 藤原時代、徑二寸七分 一面
 - 二二六 菊紅葉雙雀鏡 藤原時代、徑三寸五分 一面
 - 二二七 蓬萊鏡 足利時代、徑三寸六分 一面
 - 二二八 三盛龜甲雙雀鏡 足利時代、徑三寸七分 一面
 - 二二九 三菊散雙雀鏡 足利時代、徑三寸一分 一面
 - 二三〇 龜甲地雙雀鏡 足利時代、徑三寸八分 一面
- 岩出齋三郎氏出品

上上上上上上上上上上

四七 紋畫方鏡
四八 布袋柄鏡

徳川時代、銘天下 一出雲守、
二寸七分五厘角
徳川時代、銘天下、
徑三寸五分、柄三寸二分五厘

一面 同
一面 同
上 上

三〇

文房具

七六 天平筆

模造

一本

二五七 瓦硯

銘細波

一面

二六二 銅硯

銘曰青鸞獻壽

一面

三六 軸盆

二卷置、卷物ヲ置キテ座敷筋ニ用フルモノ一個

自三六 絲印

九個

足利時代明國ヨリ輸入セル一種ノ仕込印ナレバ多クハ印文讀ムベカラズ。絲印ト稱スルハ彼國ヨリ輸入セル唐絲ノ内ニ入レタルモノナリト云フ説アリ。

二〇五 銅印 印文大福

一個

本邦製ノ古印ニシテ篆文奇古ナリ。奈良朝乃至平安朝ノモノニシテ世ニ大和古印又ハ延喜古印ナドト稱ス。又其鈕ノ形ニヨリテ鷄頭紐ノ印トモ稱ス。之ニ類スルモノ間々朝鮮エモ存セリ。

二〇四 銅印 印文貞

一個

九八 墨型 鐵製

一個

硯

一面 井坂徳三郎氏出品

筑前博多ノ墨工常春園村田氏ニ相傳セシモノニシテ、弘法大師唐ヨリ持歸リシモノナリトイフ。
本品ノ傳來ハ左記三條實萬卿ノ消息ニヨリテ詳ナリ。
度會弘訓神主搜索皇朝之史書其用意也甚深切足感嘆矣爲慰其勞附與硯一枚耳
此硯者自 禁中拜賜物也

嘉永二年五月一日

權大納言 實 萬

二六六 硯屏 明時代

一基

樂器

三三〇 和琴 銘五十鈴

一面

我國固有ノ絃樂器ナリ。首端鴉尾ニ似タルヲ以テ鴉尾ノ琴トモ云フ。

二〇九 琵琶 雅樂用

一面 神宮神部署出品

二〇〇 箏 雅樂用、第三室風俗人形ニ配ス。

一面 神宮神部署出品

二〇六 樂太鼓 雅樂用

一基

二〇五 鉦鼓 雅樂用。臺裏銘曰樂器師神田内匠作

一基

二〇三 羯鼓 雅樂用

一基

二〇二 篳篥 銘翁丸。雅樂ニ用フル管樂器ノ一

一管

二〇一 笙 銘鳳凰丸。雅樂ニ用フル管樂器ノ一

一管

極書曰

右之古管作者不知年數凡及三百年餘尤音律勝可爲秘藏重器也

從四位下右京亮貊則安(花押)

二〇〇 橫笛 雅樂ニ用フル管樂器ノ一

二管

二〇一 橫笛筒 (相笛入)

一個

二〇二 橫笛筒

一個

二〇三 神樂笛 雅樂用。我國固有ノモノ。太笛トモイフ

一管

二〇四 高麗笛 高麗樂用

一管

一〇三 袍 納蘇利

一領

武官着用ノ闕腋ノ袍ト同シクシテ袖括アルヲ異ナリトス。左方ニハ赤色ヲ右方ニハ青色ヲ用フルヲ常トス。舞樂ノ時コノ上ニ襦ヲ著シテ下ニ差貫ヲ著ク。舞樂ハ雅樂ニ合セ舞フモノニシテ、天竺漢土ノ樂トシテ多ク佛教ノ傳來ト同時ニ渡來シタルモノナルガ

後ニハ神事其他朝廷ノ諸儀式ニモ用ヒラル、ニ至レリ。

- 二五二 補 リヤウ 襦 トリ 納蘇利、裏書曰正徳二丁稔九月三日 東大寺八幡宮
- 二五三 表 ウヘノ 袴 ハカマ 納蘇利
- 二五四 腰 帶 裏書曰正徳四甲歲九月三日東大寺八幡宮
- 二五五 傘 バウ 子 納蘇利
- 二五六 桴 バチ 納蘇利、傳、東大寺八幡宮舊藏
- 二五七 袴 舞樂用左方
- 二五八 袍 林歌右方
- 二五九 袍 ラリヤウワウ 蘭陵王
- 二六〇 伎樂面 ガクノシ 崑崙、模造

一領 一腰 一頭 一本 一領 一腰 一領 一面

伎樂ハクレガクト訓ス。佛教ト同時ニ渡來セタル所謂吳國ノ樂ニシテ、奈良朝時代ニ行ハレタルガ中絶シテ今ハ傳ハラス。ソノ曲目ノ一部ハ舞樂ノ中ニ編入セラレテ後世ニ殘レルモノアリ。

- 二六一 伎樂面 迦樓羅、模造 一面
- 二六二 舞樂面 貴得、傳曰東大寺八幡宮舊藏 一面
- 二六三 舞樂面 散手(?)傳曰東大寺八幡宮舊藏 一面
- 二六四 能面 シロシヤウ 白尉、日光作 一面
- 二六五 能面 クロシヤウ 黒尉 一面
- 二六六 能面 オホトビテ 大飛出 一面
- 二六七 能面 オホベシ 大慈見、缺損 一面
- 二六八 舞樂面 納蘇利、裏書曰正徳元年九月三日取順作 一面
- 二六九 舞樂面 正徳三年九月三日令修復者也東大寺八幡宮 一面
- 二七〇 舞樂面 散手、裏書曰正四位上出羽守 一面
- 二七一 舞樂面 太秦俊壽宿禰(花押)八十一歳ノ作 一面

山中ます氏出品 上

三七三 舞樂面 關陵王、東大寺八幡宮舊藏

一面

三六

遊戲具

六八三 蹴鞠裝束

皆具 野間園彦氏出品

六八四 鞠 銘桐壺掃木

二個 同 上

三三二 雙六盤 筒、白黒石、賽添

一面

二四 繪骨牌

十枚

二八 御所人形

五種 村岡 力氏出品

支那骨牌一、うんすん骨牌二、職人骨牌六、唐武者一、金箔地ニ極彩色ヲ以テ風俗畫ヲ描寫セシモノ。
御所人形ハ宮中又ハ貴紳ヨリ賜ハルヲ以テ名ク、又關東ニ多ク來リシヲ以テ御土產人形トモ云ヒ、其間
屋ノ名ニヨリテ伊豆倉人形トモイヘリ。

三三一 加茂人形

十二軀

三三二 御土產人形

二種

三三三 手遊 鴛鴦、熊、靴鷄、犬

四個

四〇 羽子板 黒田家定紋付、傳曰黒田家所用、享保年間製二柄

三三五 釜 淨汲作

一口

三三六 風爐 清左衛門作

一個

三三二 飯口羽釜 天明作

一口 中山 讚治氏出品

天正十五年太閤秀吉北野ニ大茶湯會ヲ開キシ時中山氏ノ祖正忠携ヘ上リテ、獻茶ノ榮ニ與リシモノナリト云フ。

三〇〇 茶 杓 竹村龜庵作

一本

三七

三〇 棗

殘月時鳥蒔繪。

一合

三八

葦手繪ノ文字ハ高尾ノ筆意ナリト、高島藍泉ノ蓋裏書アリ。

三〇 毘香爐

一個

支那ニテ被^{フスマノウチ}中ニ用ヒシモノ、遠風ニシテ火入廻轉ス。之ヲ臺ノ上ニ置キ、環アル場合ハ釣リ用ヒテ釣香爐トイフ。

二六 香道具

一具

盤板共ニ掻合朱塗、小板二枚、競馬人形一對、同板二枚、黒梯臺二個、矢數香用矢黒梯臺付十一本、關花香用櫻紅葉臺付十本、瓢箪金總付十個、銀總付十個
沈木、白檀等各種ノ香木ヲ薰ジ、人々之ヲ暗射シテ勝負ヲ決ス。之ヲ香合トイフ。其方法ニヨリテ種々ノ名アリ、隨ツテ其勝負ヲ標スル道具モ異ルヲ用フルナリ。

六九 十炷香道具

一組

野間 園彦氏出品

七五 香 盒

一合

傳祥瑞作

三三 源氏香箱

一合

二六 焚 殼 入

一個

蓋欠

三元 鞠 臺

一基

度量衡 貨幣

三三 瑠 璃 尺

一本

模造
一面ニハ十二支ノ圖ヲ描キ、一面ニハ樓閣庭園花鳥ヲ描キ悉ク藍ヲ以テ彩色ヲ施セリ。原品岩代國耶摩郡惠日寺所傳

三〇 支那古尺

三本

模造、唐大尺、唐小尺、周尺

三三 天 秤

一基

宇仁田仁兵衛氏出品

(一) 舊貨紙幣

徳川時代金銀貨模造、本邦古錢、支那錢、安南錢、畫錢及厭勝錢、舊藩紙幣、山田羽香

三九

三三 軍用千兩箱

一個

四〇

三三 古金壺及蓋石

一個

石谷峻三氏出品

維新前火盜難豫防ノタメ、金錢ヲ藏シ、床下土中ニ埋メシモノ。

自八
至八
金 量

五個

宇仁田仁兵衛氏出品

二八 兩替看板

一個

同上

第五室

神宮遷宮關係資料 輿車船舶

二四九 皇太神宮遷宮式模型 (圖版參照)

神宮式年遷宮ハ二十年毎ニ行ハセラル、御定ニシテ、奉遷勅使ノ參向アリ。渡御ハ夜ヲ以テ行ハセラル、御神體ハ大宮司、少宮司、禰宜之ヲ奉戴シ、絹垣行障ヲ繞ラシ奉リ、奉遷勅使前行シ、祭主後ニ供奉シ、

以下ノ神官各其ノ所役ヲ奉ジテ前後陣ニ供奉ス。コハ明治四十二年十月二日ノ皇大神宮渡御ノ御儀ヲ護模シタルモノナリ。

二五七 細辛櫃 御弓容器

一合

二五八 細辛櫃 御太刀容器

一合

二五九 辛櫃 御裝束容器

一合

二六一 辛櫃 金銅御襦、其他容器

一合

以上明治四十二年式年遷宮御用

九六 日本丸船首龍 木彫

一個

本品ハ日本丸船首ノ龍トシテ、舊鳥羽城ニ傳ハリシモノナリ。蓋シ日本丸ハ天正十九年鳥羽ノ城主九鬼嘉隆太閤秀吉ノ命ヲ受ケテ造リ、文祿征韓ノ役ニ從ヒシ軍船ニシテ、後ノ城主内藤伊賀守之ヲ改造シテ大龍丸ト改稱セリ。龍ハ當時ノ増設ニ係ルモノナラム。

八三 雛形丸模型 木製

一個

舊鳥羽藩ニ傳來シタルモノニシテ、文祿征韓役ニ從ヒタル同形船ニツキ、嘉永七年藩命ニヨリテ時ノ水
手頭中村傳六、河村傳七ノ兩人四年ノ星霜ヲ費シテ模造シタルモノナリ。

四九

四方輿シハウゴシ 俗ニ摩取輿ト稱ス

一挺

延寶年間内宮長官藤波氏富ノ使用セシモノニシテ、明治二十二年度御遷宮山口祭ノ際造神宮使ノ御資格
ニテ、神宮祭主久通宮朝彦親王殿下ノ乗用セラレタルモノナリ。

第六室

風俗人形

三〇元 大名行列人形

舊山口藩主毛利氏ノ行列ヲ模シタルモノナリ。

古文書 畫圖 典籍 筆蹟 金石文

三四 永仁四年八月廳宣テウゼン

一通

此廳宣ハ光明寺舊記中卷ニ收ムル文書ノ本書ニシテ、文意ハ伊勢國三重郡船橋ノ住人乘光ト云フ者同郡
ナル平松神田二段ノ内若干歩ヲ恣ニ耕作スルヲ以テ、法常住院領雜掌度會有長ノ訴ニ由リテ、之ヲ禁遏
セントスルニ在リ。

凡ソ廳宣トハ檢非違使廳別當ノ下文ヲ云ヘド、此處ナルハ往古我神宮ニ稱セル處ノモノニシテ、神官相
集リテ宣フル下文ナリ。其書式ニ於テハ必ズ在職神官正員全部ノ署名アレドモ、廳宣ノ下ノ人名ハ記スル
モノト記セザルモノトアリテ必ズシモ一樣ナラズ。

三五 寛永十五年伊勢御師且所沾券オンジダンシヨコケン

一通

往古我神宮ニ在リテハ私人ノ委託ニ應ジテ祈禱ヲ爲ス者ヲ師職ト云フ。又之ヲ御師トモイフ。而シテ其
祈禱ヲ師職ニ委託スル者ヲ旦家ト云ヒ、且所ト云フ。又古クハ之ヲ道者ト云ヘリ。

近世ニ於ケル旦家ト師職トノ關係ヲ見ルニ、毎年師職ヨリ旦家ニ大麻ト屑トヲ配付シ、之ニ添フルニ土

産物ヲ以テス。而シテ之ヲ受クルトコロノ且家ハ、名々初穂トシテ若干ノ食品ヲ寄付スルナリ。又且家ノ者ノ參宮ニ當リテハ其師職ノ家ニ宿泊シ、初穂ヲ獻ジ祈禱ヲ行ヒタリ。

道者賣渡ト云ヒ、且所賣渡ト云フハ即チ上ニ述ベタル關係ニ於テ生ズル處ノモノニシテ、此ノ如キ賣渡ノ證書ハ足利氏ノ末葉以降ハ専ラ道者賣渡、又ハ賣渡申道者ナドト記シテ、其本文ハ極メテ簡單ナリシガ、後世ニ至ルニ從ヒ其條項自ラ綿密トナレリ。

三 德川歴代將軍春木家神領朱印狀

十通 春木ひで氏出品

春木大夫ハ德川將軍家ノ御師職ニシテ伊勢、遠江、越後等ニ於テ八百石ヲ領セリ。家康、秀忠兩將軍ノ分ハ古ク自火ノ爲ニ焼失シ家光ヨリ家茂ニ至ル各將軍ノ分ヲ存ス。

三 大閣豊臣秀吉朱印狀

一通 久志本忠玄氏出品

文祿征韓ノ役ニ御師椿叟大夫ヨリ陣中見廻トシテ被重ニ熨斗ヲ贈リシニ對スル謝狀ナリ。

三 大々神樂奉奏文

一通 堤治 助氏出品

明治四年神宮御改制前ニ在リテ神樂ヲ奉奏セントスル者ハ、各々其師職ノ邸ニ於テ之ヲ行ヘリ。コハ靈

元天皇ノ中宮新上西門院藤原房子五十歳御賀ノ時ノモノナリ。

三 正徳三年大内人補任狀

一通

此祭主下文ハ宮掌大内人職ノ補任、所謂本職ノ任狀ニシテ、今謂フ所ノ辭令ナリ。明治四年以前神宮職員ノ任命ハ禰宜ニ在リテハ宣旨ヲ以テ之ニ補シ、權禰宜大内人宮掌等ハ祭主之ヲ補ス。扱此下文ハ祭主ノ政所代ノ請求ニ應ジテ、祭主ヨリ祭主署名ノ任狀同文ノモノヲ一回ニ三十六枚ヲ政所代ニ送ル、祭主ニ來リ司家或ハ政所代ノ家ニ宿泊スル時ハ無記名ノ本職若干枚ヲ贈リテ其料ニ代フルコトアリ政所代ハ之ヲ司家ニ送り、司家ハ之ニ大司署名ノ奉行文ヲ記シタル一紙ヲ繼ギ合セテ之ヲ宮政所ニ送ル、宮政所ハ又之ニ奉行文ニ正員連署政印ヲ行ヒタル一紙ヲ繼ギ合セテ之ヲ司家ニ返展ス。司家ハ之ヲ政所代ニ分與シ、其餘ヲ己ガ家ニ留ム。茲ニ於テ本職ノ任命ヲ請フ者ハ司家又ハ祭主ノ政所代ニ申出ヅレバ、其家ニテ本人ノ氏名奏某ヲ撰定シ、此繼台セタル初メノ一紙、即チ祭主ノ下文ニ其名ヲ記入シテ之ヲ本人ニ附與スルナリ、以上ハ神宮御改制前禰宜ニシテノ談ニ由リテ之ヲ記ス

三三七 建長六年十一月十七日政所下文

マンドコロクダシフミ

本書ハ美作國久米郡^{ハクワニシヨウ}和^{ハクワニシヨウ}西郷地頭職讓與ニ關スル、鎌倉幕府政所ノ下文ナリ。時ノ將軍ハ宗尊親王ニテ署名ノ處ニ別當陸奥守トアルハ平重時、相模守ハ平時頼ナリ。後ニ掲ケル正和二年七月五日ノ讓狀ヲ參照スベシ。

〔本文〕 將軍家政所下 美作國^{ハクワニシヨウ}和^{ハクワニシヨウ}西郷住人」可令早密嚴院阿闍梨覺^{ハクワニシヨウ}支爲地頭職事」右任祖父入道左馬

頭義氏^{法名} 去月二十九日讓狀」彼職守先例可致沙汰之狀所仰如件以下」

正義 建長六年十一月十七日 案主 清原

令左衛門少尉藤原

別當陸奥守平朝臣(花押)

相模守平朝臣(花押)

三三二 至德二年田地沽券

デシヨクケン

一通

本書ハ代々相傳ノ田地ヲ賣渡ス證書ナリ。

〔本文〕 賣渡 齋田事

合貳段者 在所里坪事在本券文、段別割斗陸升者十合升定、同段別藁三束、已上百姓方沙汰也

右件田地者、若狹上座定後買得相傳于今無子細者也、然依有要用、直錢拾陸貫文爾限永代相副

手續證文等(九通)所賣渡勸修寺上島八郎衛門殿買也、雖經後々末代、更不可有他妨者也、若萬

壹於此田地不慮煩出來之時者、本錢以壹倍可致辨沙汰者也、兼又有限所役田別參百文、每年無

懈意可有其沙汰也、一切此外万雜公事無之者也、仍爲備後々末代ノ龜鏡、賣券之狀如件

至德貳年二月二十三日 上座 定俊(花押)

一通

三三一 弘安五年院宣

本書ハ左京職ノ者、佛名院ノ寺領ヲ犯スヲ以テ、院宣テ下シテ其妨ヲ止メラレシナリ。

〔本文〕 佛名院所司等申「寺邊小田左京職成」煩候由事任先例可」止其妨之旨被仰知嗣」朝臣之處請文

如此向」後停止職改可爲寺」領者依」院宣執達如件」

四七

四六

五月七日
大納言僧都御房

院宣トハ院ノ有司院ノ旨ヲ奉シテ下知スルトコロノ文書ヲ云フ。白河天皇遜位ノ後猶院中ニテ政ヲ聽ク、即チ院政ノ初ナリ。

三三九 正和二年美作國埴和西郷地頭職讓狀

一通

本書ハ美作國久米郡埴和西郷半分地頭職ノ讓狀ナリ。書中ニ見エタル權律師覺實ハ密嚴院ノ僧ナルベク相模守ハ北條高時ニシテ、修理權大夫ハ北條貞顯ナリ。前ニ掲ゲシ建長六年十一月十七日ノ政所ノ下文ヲ參照スベシ。

〔本文〕 讓渡

權律師覺實所

美作國埴和西郷西方半分「地頭職事」

右地頭職大納言僧都覺兼一期之「後者寄合尾張孫三郎義博與覺實」爲中分可知行但四名除之領家「御年貢以下御公事等者半分津々」可辨勤也仍爲後日所讓渡之狀如件」

正和貳年七月五日

法 印 覺(缺)

〔裏書〕 任此狀可令領掌之由仰依上知」如件」

元亨四年九月十三日

相 模 守(花押)

修理權大夫(花押)

三三六 正和四年八月十四日安堵狀

一通

本書ハ僧侶ノ遺跡讓與ニ關スル安堵狀ニシテ、書中ニ見エタル相模守ハ北條基時、武藏守ハ北條貞顯ナリ。其僧侶ノ名ハ共ニ明ナラズ。

〔本文〕 内大臣僧正跡坊舍所領等「事任先師水本僧正去年」十月二十一日讓狀可致沙汰之狀依仰」執達如件

正和四年八月十四日

相 模 守(花押)

武 藏 守(花押)

按察律師御房

安堵トハ武家時代ニ於テ土地ノ所有權ヲ承認スルヲ云フ。時世ノ轉變ニアフモ猶舊ノ如ク父祖ノ所領ヲ

知行シ、或ハ久シク中絶セル舊領ヲ故アリテ返シ與フルコトヲ本領安堵ト云ヒ、其證據トシテ御教書、若クハ下文、奉書等ヲ下シ與フ、コレ即チ安堵狀ナリ。

三三五 元弘三年足利尊氏下知狀

一通

本書ハ伊豆國走湯山密嚴院寺務職ニ關スル下知狀ニシテ、書中ノ左兵衛督ハ足利尊氏ノコトナリ。宰相印御房ハ其氏名明ナラズ。

〔本文〕 伊豆國走湯山密嚴院寺務職事「所申付也任先例可被領掌之狀」如件

元弘三年九月十四日

左兵衛督(花押)

宰相法印御房

三三四 曆應二年高師冬願文

一通

本書ハ高師冬ガ東國ニ赴キ下總常陸ニ轉戦シタル時ノ願文ナリ。走湯權現ハ伊豆神社ノコトニシテ、又伊豆山權現トモイヘリ。

〔本文〕 敬白

走湯權現

立願事

右幕府ノ雄兵各安全常州之「梟徒悉敗亡者且達ト聞且願」中誠専途當山之造營宜責權扉之「威光 我朝之刃安神道之再昌宜在」此戰功唯願顯靈效敬白

曆應二年八月十九日

參河守師冬(花押)

三三三 康安二年口宣案

一通

本書ハ僧正光濟ヲ以テ、眞言宗醍醐寺ノ座主ト爲ス口宣案ナリ。上卿左衛門督ハ權中納言藤原時光、康安二年ハ即貞治元年ナリ。

〔本文〕 上卿左衛門督「康安二年三月三日 宣旨」僧正光濟「宜令爲如舊醍醐寺座主」

藏人頭宮内卿平行時奉

凡ソ藏人勅命ヲ受ケテ上卿ニ傳宣シテ下サシムル者ヲ口宣ト云ヒ、上卿口宣ヲ藏人ヨリ受取り是ヲ我家

ニ納メ、別ニ寫シテ外記ニ達スルモノヲ口宣案ト云フナリ。

三三八 康安二年四月足利義詮御教書

一通

本書ハ武藏國栗木寺ノ事ニ就テ、將軍足利義詮ヨリ關東管領左兵衛督足利基氏ニ宛タルモノナリ、栗木寺ハ一名吉祥寺ト云ヘド今詳ナラズ。

〔本文〕 法印權大僧都經源申「武藏國栗木方事宜」有計御沙汰候謹言」

康安二年四月十七日

義

詮(花押)

左兵衛督殿

御教書トハ三位以下ノ公卿、竝ニ武家ノ棟梁タル者ヨリ出ス公文書ノ一ナリ。

三三九 貞治二年九月繪旨

一通

本書ハ山城國宇治郡醍醐ナル、眞言宗醍醐寺ノ院室ニ寶院ニ、尾張國得全保ヲ宛行ヒタル繪旨ニシテ、署名ノ右中辨ハ藤原嗣房ナリ。

〔本文〕 尾張國得全保」爲料所可令知行」給之由」天氣所候也仍上啓」如件」

貞治二年九月廿四日

右 中 辨(花押)

謹上三寶院僧正御房

繪旨トハ藏人ガ勅旨ヲ承ケテ出ス文書ヲ云フ。

三四〇 永和三年繪旨

一通

本書ハ後七日御修法ノ繪旨ナリ。此御修法ハ毎年正月八日ヨリ一週間宮中ノ眞言院ニ於テ行ハル、故ニ又眞言院ノ御修法トモイヘリ。署名ノ左少辨ハ經重ニテ、宛名ノ報恩院ハ山城國宇治郡下醍醐ニ在リ、眞言宗醍醐寺ノ院室ニシテ、其法印御房トアルハ阿闍梨權僧正隆源ナリ。

〔本文〕 明年後七日法」可令勤修給候依」天氣執達如件」

十二月七日

左 少 辨(花押)

謹上報恩院法印御房

三四一 明和元年太政官牒

一通

本書ハ東寺長香ノ補任ニシテ、太政官ヨリ東寺ニ其旨ヲ牒スルナリ。

〔本文〕 太政官牒 東寺

前大僧正法印大和尚位道雅

右正二位行權大納言藤原朝臣長熙「宣奉 勅件人宜爲彼寺長者」寺宜承知依宣行之牒到准狀
故牒

明和元年十月二日

從四位下行主殿頭兼左大夫小槻宿禰(花押)

正五位上行左少辨藤原朝臣

五ノ五 相物座沽券

一通

座トハ鎌倉時代以後各地ノ市場ニ於ケル專賣店ノ稱即物ヲ賣ル座ノ謂ナリ。あひものハ干魚をいふ。

〔本文〕 永代賣渡申あい物座之地之事

合伍貫文

右依有急用子細八日市庭魚屋七郎兵衛殿へうり渡申候事實也。よこへ天下大法之こくせい行候共相違有間

數候若干後六借數候子細候共以□錢賣返し可申候彼地之事南へ一□西より八間め也仍爲已後狀如件
明和八年巳十二月廿日

うりぬし よ□

五郎

五ノ六 鹽濱沽券

一通

〔本文〕 定永代沽渡申候事

發きまが一つ出ル也

合穴六有在所と小木領車鹽屋米貳斗納

限南小木三郎五郎とほチ 限西小木二郎たいたとほチ

四至境 限東ハ河なりを 限北ハ小木序大夫とほチ

右件鹽とほハ從親雖讓得候依有急用直錢貳貫六百元ニ覺弘院江水代賣渡申候處實正明鏡也縱天下大法之
德政地起行候共於此とほニ違乱煩有間數候本文書ハ一乱ニ取失候間以此文書永々可有御知行候百姓
職上成無一圓候うりぬしにて候仍爲後日賣券之狀如件

五五

天文七年十一月二日

覺弘院

参る

賣主 小木七郎五郎

五六

九七、三 屋敷沽券

〔本文〕 永代うりまとし申屋敷之事

合壹ヶ所同道よりひくし出屋敷さにも也

右之屋敷ハようくあるによつてちき錢貳拾五貫文ニ大ぬしや宗二郎殿へ長くうりまとし申さころ實正明そくなり有所ハ横橋也西に五郎左衛門殿屋敷ひくしハ大道さハ地るい也南をた也六しやく二寸のほへよてきた足なみへハ二けんま中西ひくしへハ五けん四しやくよて候也福島殿より我等うい申候本文書をあいそへ候て渡申候天下一同地おこし行候さも此屋敷おいてさおいなく永く御地行あるへき物也仍うり狀如件

ほちのこの

うりのし

一通

永正十六年九月十八日

卯のとし

二見

宗二郎忠濟

九七、三 田地沽券

〔本文〕 永代賣渡申田地之事

合半香 但三斗五升代 有坪は、足也

右件之田地者依有要用代錢貳貫文ニ伊せ大ぬしや宗左衛門殿永代賣渡申處實正也此下地より色成五十文つ、御納所候て永代御知行可有候但此田地者伊勢大神宮御宮田賣渡申候同若子々孫々之者何い申者出來候ハ、ながく大神宮の御神法度こうむる可く候仍爲後日永代證文之狀如件

賣主橋爪住人 道 泉

天文九年十二月十四日

彦八郎

九七、七 島地沽券

一通

五七

〔本文〕 定永代活渡申候島之事

合壹段二杖有在所者中ほり之前いけの上也

上成を百四十文有納一石一斗五升代也納のます也

限南ハく抄也此く抄も此島へ付申候

四至境 限東ハふ此をふくも抄も此島へ付申候

限西ハ田丸かすへ殿島ヲ限北ハ中庭五六殿島ヲ

右件島者依有急用世義寺覺弘院江直録四貫百文ニ永代賣渡申候處實正明白也經天下大法徳政地起行候共
於此島ニ違乱煩有問數候於此島ニ百姓職ハ無一圓者也仍爲後日うりけん之狀如件

うり主ふとまます米や

天下廿二年^天紀四月廿八日

與三郎也

吉次

口入うし衛門平四郎

世義寺覺弘院へ

卷元 金子借用證

一通

〔本文〕 かり申候れうそくの事

合九貫貳百文二度にかり申候

やうてくさんやう可申候

天文十四年^ののとし三月

昆布屋

より

幸福右馬助殿 参

卷六 古老口實傳 原本

一卷 久志本常幸氏出品

外宮禰宜度會行忠神主公私ノ年中行事其他故實等ニツキ、古老ノ口傳ヲ輯メタルヲ、河崎延誠ノ書寫シ
タルモノニシテ、現今世ニ流布セルモノ、原本ナリ。

六〇 三首和歌會紙

一冊 同

大〇

上

内題三「建武元年甲戌八月十五日夜外宮二福宜朝棟神主享會紙、但一見之次不札次第所書留之也」トアリ
朝棟本姓度會外宮長官ニ上リ、執印三年七十七歳ヲ以テ薨ズ。和歌ノ名手ニシテ其詠スル所續千歳、新
葉諸集ニ採録セララル。

六一 御裳濯和歌集

二冊 同

上

六二 北御門歌合 冒頭ニ「歌合元亨元年冬」トアリ

一卷 同

上

作者ハ外宮禰宜常良、家行、朝棟等五人權禰宜延明、延誠、盛行等十二人、外ニ藤原憲家女ヲ加ヘ總數
十八人ナリ。

六三 河崎延明和歌

一幅 同

上

〇 光明寺文書

光明寺出品

光明寺ハ宇治山田市岩淵町前田ニ在リ。天平十四年聖武天皇ノ勅ニヨリテ草創セラレシ天台宗ノ勅願所

タリシガ、後醍醐天皇ノ元應年間、時ノ住僧惠親之ヲ禪宗ニ改ムト云フ。モト前山(度會郡宮本村)ニ在
リシガ、何時ノ頃ニカ山田吹上ニ移シ、寛文年間祝融ノ災ニ罹リ現地ニ再築セリ。惠親ハ月波禪師ト稱
ス。南朝ノ忠臣結城宗廣ノ親族タリシヲ以テ、延元元年南朝ノ奥州下向軍海上風難ニ遭ヒ、宗廣伊勢ニ
漂著スルヤ途ニ常寺内ニ客死セリ。故ヲ以テ宗廣自筆ノ軍中日記及令室ノ書簡等ヲ什襲セリ。軍中日記
ハ徳川光圀大日本史ヲ編纂セシ時光明寺殘篇トシテ採收セリ。

六四 結城宗廣軍中日記(國寶)

一卷

六五 結城入道及令室書簡(國寶)

一卷

六六 北畠親房下知狀

一卷

北畠親房ヨリ光明寺へ、大勝金剛法修法ヲ命セシモノナリ。文書ノ日付延元元年十二月二十一日ハ、
後醍醐天皇花山院ヲ脱シテ吉野ニ潛幸アラセラレシ當日ナリ。

六七 豊臣秀吉朱印

一卷

光明寺ノ古鐘ハ後深草天皇ノ御代、常磐井入道實氏ノ寄附セシモノト云ヘリ、古來神境ニ於テハ梵
鐘ヲ撞クコトヲ禁止セシガ、豊臣氏ノ時寺僧郡宰上部越中守ニ愁訴シ、遂ニ特許ヲ得テ毎日二回之

ヲ擅クコト、ナレリ。本文書即チ是ナリ。

- 一 卷 永仁六年宣旨
- 一 卷 足利義滿御教書
- 一 卷 月波上人勸進狀

○内宮年寄家文書

十文字重輝氏出品

神都ノ地明治維新前ニ在リテハ、山田ニ山田三方、宇治ニ宇治年寄アリテ各其地方政治ヲ行ヒ、コレガ監督トシテ山田奉行ヲ置カレキ。本文書ハ宇治年寄家中ニ傳ヘタルモノナリ。

- 一通 天正三年北畠信意判物宇治六郷徳政免除ノ下知狀
- 一通 文祿三年太閤秀吉朱印宮川内檢地免除ノ朱印狀
- 十二通 徳川將軍家朱印内宮領内守護不入ノ事、喧嘩口論停止ノ事、參宮道者御師關係ノコトヲ令セルモノ。
- 一通 寛文八年檀那争ニ關スル評定所下知狀

- 一通 被銘兼行ニ關スル評定所下知狀
- 一通 寛永八年師職定書
- 一通 溝口村山田原村訴訟裁許書元祿六年
- 一通 宮山境紛議裁定書享保十七年
- 一通 宿道者定書承應三年旅籠道者ノ訴訟ニヨリ宇治上兩郷年寄定書
- 一通 寛永四年高野定書高野山檀那ニ付宇治上兩郷年寄規約
- 一册 内宮町方仕來之帳寶永七年
- 一册 内宮領町方仕來之帳同上
- 一通 神領鶴松新田ニ關スル奉行沙汰書天和二年
- 一通 安永二年兩會合申合
- 一通 兩會合取扱方ニ關スル寛政十年
- 一通 奉行申渡聞取書

- 五五 寛政十年奉行仰渡會合心得 一通
- 五六 會合ニテ手鎖申付ニ關スル奉行達書安永七年 一通
- 五七 兩宮爭論ノ節外宮年寄へ下付朱印寫寬永十二年 一通
- 五八 内宮向山關所地ニ關スル奉行所達書寶永五年 一通
- 五九 傳馬ニ關スル奉行桑山丹後守書狀 申七月 一通
- 六〇 會合仕來書 奉行所加筆、天保六年 一通
- 六一 町民違背者處分ニ關スル評定所沙汰書寬文五年 一通
- 六二 小俣村傳馬ノ件ニ付久野和泉守口上書寫及奉行與書書狀 元祿十五年 一通
- 六三 年寄家中申合書 慶長七年 一通
- 六四 小俣村馬次問屋ノ件ニ付沙汰書 元祿十五年 一通

三 關所地處理ニ關スル奉行所沙汰書安永九年一通

○角屋家文書

角屋七郎次郎氏出品

天正年間伊勢大湊ニ角谷七郎次郎トイフ者アリ。小田原北條家ト濱松松平家トノ爲ニ海上通路ヲ開キ屢々其ノ用ヲ達セリ。本能寺ノ變德川家康一揆ニ襲ハレ逃レテ伊勢白子若松浦ニ到ルヤ、七郎次郎之ヲ船底ニ隠シテ危急ヲ救ヒシ功ヲ以テ子孫代々朱印船ヲ以テ諸國ニ航行セリ。七郎次郎ノ孫七郎兵衛安南航海ヲ企テ、元和元年八月八幡丸ヲ織シテ彼ノ地ニ渡リ、土人ヲ娶リテ日本街ニ寺院ヲ設立シ松本寺ト名ヅク、蓋シ松本ハ其ノ本姓ナリ。爾來支那沿海ヨリ安南交趾ニ通商貿易セリ。

一六 北條氏政朱印 一卷

角谷七郎次郎小田原北條氏政ノ依囑ニヨリ、其使者ヲ受容伊勢ノ神社ニ奉納物ノ使ニ裝ハシメ、濱松ナル松平氏トノ間ニ海路連絡ヲ圖リシトキノモノナリ。

(一) 德川家朱印 十二通

一七 海 圖 獸革製 一枚

此種ノ革製航海圖ハポルトガル人來航以來我國ニ傳ハリシモノニシテ、本品ハ七郎次郎ノ孫七郎兵衛安南航海ニ使用セシモノナリ。

三〇 廻船極定書 一卷

承應二年廻船極四十四箇條ヲ兵庫辻村新兵衛尉等幕府ニ應答シタル船法ノ謄寫ナリ。

三一 船戰秘書 一卷

徳川時代ニ於ケル戰船ニ關スル秘書ナリ。

三二 公邊古文書 一卷

徳川時代御朱印船ニ關スル文書ナリ。

三三 安南國往復書翰 一卷

三六 角屋近親諸方來狀 一卷

世ニじやがたらふみト稱スルモノ本卷ニ收メラレタリ。

一六 船 旗 三旒

一七 八幡丸圖 一卷

一八 角屋七郎兵衛傳記 一冊

一九 古文尙書 十三卷

本書ノ傳來ハ奥書ノ文ニ詳ナリ。左コ之ヲ示ス。

仁平元年六月二十五日申越、以少納言入道摺本之釋文見合了、總州ノ御時、以古本竝唐本釋文所被付音義也、然而依有不審事、重所校合、古本勅物雖有委細事付、今委之摺本合點畢、不裁(載)摺本勅物付輪應保二年四月二十六日見合或古本了、仲書江家之繼本也、披合之處其可取之事有數、仍一部所校合也建保六年七月九日授仲光了、在御判建長第八曆晚春十一日書點了至此書者以摺本書寫之、以古本校點之、凡虞夏商周書者壁中舊本、隸古之遺字也、雖然改古字爲今字處本文加此、其上

高倉上皇御讀之本又如此歟、當家尤可用之哉、但古字之體一向不可失之、仍本用今字傍附古字者也一部十三卷五十八ヶ篇、爲一字半字不借他人之手、偏至墨點朱點、皆用自身之功、子々孫々繼價内兮、不出關外也、清原、

六八

正和第三曆孟夏初五日以家之秘說授甲生德才子、以十一代之學業終十三卷之詰訓、當時希有書也、

明經得業生 清原長隆

古之尙書合部十三卷、花園帝正和年中、明經得業生清原長隆以家之秘說所加訓點也、手書曰以十一代之學業終十三卷之詰訓當時希有者也、且末時所謂少納言入道者藤原信西也、所謂德州者助教直講定康乎、清原世々傳授秘本明々昭々、余偶得之珍藏有年、然今以爲希代之物奉納勢州大神宮文庫、而貽萬世洪寶表方寸微忱也、唯冀神之靈永垂鏡照、謹跋一語以爲後證、

貞享元年甲子夏四月上旬

島原城主從四位下主殿頭源忠房

三六八 天球儀

一基

保井章哲(澁川春海)之ヲ著作シ、元祿四年内宮文殿ニ奉納シタルモノナリ。

三六七 地球儀

一基

同上

三六一 寛永八年伊勢曆

一折

維新前行ハレタル曆本ナ大別シテ具注曆、七曜曆、假名曆ノ三種トス。具注曆ハ日ノ吉凶ヲ註記シタル雜曆、七曜曆ハ七曜(日月木火土金水)ノ位置ヲ記載シタルモノ、假名曆ハ俗間ノ使用ニ應ズルタメ具注曆ヲ假名ニテ記シタルモノナリ。コノ外南部地方固有ノ曆ニシテ文字ヲ解セザルモノハタメ、繪ヲ以テ記シタル盲曆ト稱スルモノモアリ。
伊勢曆トハ伊勢ニテ造レル假名曆ノ稱ニシテ伊勢ノ祠官大^{ヲホスサ}麻ト共ニ諸國ニ頒布シテ最モ廣ク世ニ行ハレタルモノナリ。

- 二九二 箕曲作大夫曆道免許狀 安政五年
- 二九三 曆仲間誓約書 明和二年
- 三六八 長祿三年具注曆殘缺

一通
一通
一枚

三七 假名具注曆殘缺

一枚

三六 文政十年南部盲曆

一打

三五 伊勢新名所歌合繪

上卷 缺

一卷

此歌合ハ後宇多天皇弘安九年ノ頃、祭主定忠荒木田度會兩姓ノ神主及ヒ釋氏等相會シ、山田附近ニ於テ新ニ名所十ヶ所ヲ選定シテ詠吟セシモノナリ。和歌ノ筆者ハ冷泉爲相、畫ハ藤原隆相ナリトイフ。

三四 齋内親王參宮圖

一卷

齋内親王ハ齋王トモ申シ、又御座所ニ由リテ齋宮トモ申ス、大御神ノ御杖代トシテ親シク神宮ニ仕ヘ奉ラシメ給フ。崇神天皇ノ六年皇女豐劔入姬命ヲシテ大御神ヲ倭ノ笠縫邑ニ祭ラシメ給ヒシ以來、皇女ヲ以テ之ニ任シ給ヒシガ。後醍醐天皇ノ皇女祥子内親王以後ハ全ク廢絶ス。齋内親王ノ神宮御參宮ハ神嘗祭及ヒ兩度ノ月次祭ノ三回ニシテ、御參宮ノ前月盡日、竹川又ハ尾野湊ノ御禊アリ。期月十五日齋宮寮御發與離宮院御駐與。十六日豐受大神宮ニ御參向、祭典終リテ後離宮院ニ還啓ス。十七日皇大神宮ニ御參向、祭典終リテ後離宮院ニ還啓、十八日齋宮寮ニ還啓シ給フ例ナリキ。

本圖ハ曾テ、有栖川宮熾仁親王ノ令旨ヲ奉シ、御巫清直自ラ稿ヲ起シテ描寫セシメタルモノニシテ、皇大神宮ニ御參向、宮城ニ御著ノ所ナリ。

三三 御蔭群參圖

權寫 原本田中易慎筆

一卷

寶永三年、明和八年、文政十三年、安政二年、慶應三年等ニ諸國大神宮ノ神異アリトテ、拔參ノ道者群集セリ。所謂御蔭參ナリ。本圖ハ文政十三年御蔭群參ノ狀況ヲ描寫セシモノナリ。

三二 神宮私賽舊樣繪卷

一卷

明治維新前神宮ニ在リテハ、私人ノ祈禱ハ御師ノ行フトコロタリシコト上述ノ如シ、本卷ハコレニ關スル下ノ各圖ヲ收ム。伊勢街道宮川中川原ノ光景、皇大神宮御供獻備圖、豐受大神宮御供獻備圖、皇大神宮大々神樂圖、豐受大神宮大々神樂圖、代官發途式ノ圖。

三一 春日若宮祭禮圖

一卷

明治元年春日若宮ノ祭禮永續ヲ神祇官ニ願出テシ時、參考トシテ此卷ヲ添ヘタリト云フ。奥書ニ曰。春日若宮ノ祭禮ノ事ハ崇徳院御宇保延元年二月二十七日中臣祐房若宮ヲ別殿ニ奉遷、同シク

二 春秋九月十七日祭禮ハシメテ執行ス云々。筆者詳ナラズ。

一卷

春日大宮祭ハ清和天皇貞觀元年十一月以降今ニ至ルマテ行ハル、所ナリ、筆者詳ナラズ。

三 豊國祭繪屏風 極彩色

一隻

四 豊宮崎文庫表門額 文「豊宮崎文庫」善齋遺慶書

一面

豊宮崎文庫ハ豊受大神宮宮域ノ東豊宮崎(岡本町)ニ在リ。慶安元年外宮ノ祠官出口延佳、與村弘正等相謀リ資財ヲ出シテ創建セシモノナリ。萬治三年幕府ヨリ修繕費トシテ米二十斛ノ采地ノ寄附アリ。尋テ貴紳等ヨリ珍籍ヲ寄贈スルモノ多ク、爲ニ藏書數萬卷ニ及ベリ。明治十一年祝融ノ災ニ罹リ講堂等鳥有ニ歸セシガ、圖書ハ幸ニ其ノ災ヲ免ルヲ得後神苑會ノ手ニ歸シ、明治四十四年十一月同會ヨリ神宮司廳ニ寄贈シ、今神宮文庫ニ保存ス。又書庫其他舊跡ハ私人ノ有ニ歸セリ。

五 經 筒 土製 (國寶)

一口

世義寺威徳院出品

〔銘文〕

敬白

奉施入如法經筒一口

右志者爲教養尊靈出離「生死頓證菩提施入如右敬白」

治承二年七月十二日造之

願主 僧寬喜

造手 藤井成重

敬白

六 神武天皇御陵修理誌ノ歌 楊本

一幅 瀬尾吉重氏出品

七 伊勢全國圖 古寫年代不詳

一卷 同 上

八 世義寺舊地圖 寶永六年寫

一卷 同 上

九 櫛屋看板 傳、愚堂和尚書 文「くしや彌九郎」

一面 加藤齋藏氏出品

愚堂ハ美濃ノ人ニシテ、伊勢國度會郡宮本村大字藤里ナル神護峯中山寺ニ住セシコトアリ。學徳優秀ノ高僧ニシテ、大圓寶鑑國師ノ諡號ヲ賜フ、櫛屋彌九郎ハ山田岡本町ニ在リシ伊勢櫛製造ノ老舗ナリ。

第七室

上古遺物

- 二三八 獸鏡 白銅製、破損 一面
- 二三九 乳紋鏡 白銅製 一面
- 二四〇 六鈴鏡 白銅製、破損 一面
筑前國糸島郡周船寺村大字飯氏發掘
- 二四一 三獸鏡 白銅製、破損 一面
- 二四二 內行花紋鏡 白銅製、破損、銘長宜子孫 一面
豐後國仲津郡(村名不詳)發掘
- 二四三 雙獸鏡 白銅製 一面
伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘
- 二四四 四獸面 白銅製 一面
伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘
- 二四五 勾玉砥石 出雲國八束郡玉造村ト湯町トノ境花仙山ヨリ發掘 二個
- 二四六 勾玉 碧玉岩製 一個
伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘

勾玉ハ上古ノ玉類中最モ著シキモノニシテ、其ノ起原ハ未開ノ代ニ獸類ノ牙等ニ紐テ貫キテ裝飾トシタルニアリトイフ。

- 二四五 異形勾玉 青色玻璃製 一個
- 二四六 管玉 碧玉岩製 五個
- 二四七 古史ニ竹玉トイヘルモノ、一種ナルベシ。實ハ十中八九マテハ碧玉岩ナリ。
- 二四八 切子玉 水晶製 十五個
- 二四九 丸玉 縞瑠璃製 二個
- 二五〇 白玉 滑石製 百四十二個
伊勢國度會郡神路山發見
- 二五一 棗玉 銅質鍍金 一個
ナツノ
- 二五二 小玉 淺青色及淺綠色玻璃製 百五十六個
- 二五三 金環 十個

銅ニテ造レル環ノ表面ヲ金ニテ包メルヲ金環ト云ヒ、銀ニテ包メルヲ銀環トイフ。稀ニハ中空ノ金銀環モアリ。是等ノ環ノ所用未悉ク明ナラザレドモ、中ニハ耳環ニ用井タルモアルベク、太刀ノ足金物ニ著ケタルモアルベシ。

二六六 金環連環

一個

二六五 銀環

四個

二六四 銅環

一個

二六三 銅釧

一個

釧トハ手首ヲ飾ルモノニシテ、玉釧(玉ヲ緒ニテ貫ケルモノ)鋼釧等アリ。銅釧ノ周邊ニ若干ノ鈴ヲ鑄著ケタルヲ鈴釧ト名ヅク、鈴釧ノ名古史ニ所見ナシト雖モ、手鈴トイヘルモノ蓋是レナルベシ。

二六二 貝輪

二個

コレモ一種ノ釧ナルベシ。

二六〇 三輪玉

二個

三輪玉ノ名ハ一般ニ用ヒタレドモ、固ヨリ尋常ノ玉類ニハアラズ。

二五九 石釧

一個

二五八 車輪石

一個

二五七 鉄形石

一個

二五六 刀身

一振

車輪石ト鉄形石トハ其ノ用法詳ナラザレドモ、貝殻ニテ造リシ裝飾具ノ變遷セシモノナルベシ。
上古ノ刀身ハ真直ニシテ殆ド反リナク、平作ニシテ鑄ナキヲ常トス。莖ニハ二所以上ノ目釘孔アリ。鐵製ノ目釘ノツキタルモノ往々存ス。

二五五 太刀殘缺

一振

二五四 鐔

一個

金銅金具
筑前國怡土郡(村名不詳)發掘

二五二 鐔 金銅製、喰出
上古ノ鐔ハ後世ノ如ク圓形又ハ木瓜形ノモノナク必倒卵形ナリ。

二五三 太刀足 金銅製
帶取ヲ著クル金物ナリ。

二五六 太刀責 金銅製
一本

二五七 鐵銚身 上野國碓氷郡原市町大字原市發掘
一個

二五八 太刀柄頭附屬鴉白 金銅製
一個

二五九 鐵 上野國碓氷郡原市町大字原市發掘
一個

二六〇 鐵 斧 備前國邑久郡美和村大字西須惠發掘
一個

二六一 鐵 伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘
四個

二六二 石製鐵 碧玉岩製
三個

近江國野州郡天王山發掘

二六三 轡鏡板殘片 鐵地銅金張
一個

鏡板トハ轡ノ兩側ニアル板ナリ。上古ニアリテハ其形種々アリシガ、近世ハ多ク丸ニ十字形ヲ用井タリ

二六四 馬具杏葉 鳳凰透模樣
一個

杏葉ハ胸繫、尻繫等ニ垂下セル裝飾ニシテ、轡ノ鏡板ノ如ク其形種々アリ。杏葉ノ名ハ中古後ノ飾馬ニ用井ルトコロノ形ニヨリ稱セルナリ。

二六五 馬具杏葉 金銅唐草模樣透彫
一個

二六六 馬具雲珠 金銅製
一個

雲珠ハ尻繫ノ上ノ裝飾ナリ。而シテ形ノ小ナルハ革具ノ辻金物ト知ルベシ。

二六七 殘片
一個

鞍ハ鞍ノ前輪後輪ニツキテ胸繫、尻繫ヲ留ムル具ナリ。

二六八 馬鐸 青銅製、破損
一個

馬鐸ハ胸繫ニ垂下シタル具ナリ。

二四六 金銅器殘缺

唐草模樣アリ、七鈴付
遠江國豊田郡赤佐村大字根堅發掘

一個

本品ハ他ニ類例ナク、ソノ用途詳ナラズト雖、一ノ裝飾具ナルベシ。

二四二 提瓶

一個

提瓶ハ酒水等ノ飲料ヲ携帯スルニ用キタルモノナレバ形扁平ナリ。兩肩ニ鑲狀ノ耳アリテ紐ヲ著クルニ便セルハ、其最完備セルモノニシテ鉤狀ノ耳アルハ稍省略セルモノナルベク、單ニ瘤狀ノ耳アルハ原意ノ名殘ヲ留メタルモノナリ。而シテ本品ハ其痕跡ヲモ留メズ。

二四九 提瓶

一個

二四八 提瓶

一個

二四七 提瓶

一個

二四三 提瓶

一個

盤ハ碗トモ書ス。即チ碗ニ同シ、其形球狀ニ近ク坏ヨリ深シ。

二四四 脚付盤

一個

二四三 絲底付盤

一個

二四六 坏

一個

二四四 高坏

一個

二四〇 子持高坏

一個

二四六 卍

一個

遠江國豊田郡赤佐村大字於呂發掘
ハ壺ニ同シ、盤ノ口窄マリタルチ云フ。

二二三 脚付卍

一個

二二五 長頸卍

一個

二二六 甕

甕ハ口擴ガリテ漏斗狀ヲナシ身ノ側面ニ孔アリ。コノ孔ハ竹管ヲ挿入シタルトコロナリ。

一個

二四四 甕

横瓮形

一個

二四八 小埴付甕

コソボツキハサフ

一四〇九裝飾付臺ノ上ニ裝置ス

一個

二四九 裝飾付臺

明治十六年筑前國早良郡金武村
大字羽根戸發掘

一個

二四八 甕

双環耳付

筑前國絲島郡櫻井村發掘

一個

二四三 瓶

筑前國早良郡古墳ヨリ發掘

一個

瓶ハ其ノ頸埴ヨリ翠マリタルタイプ。

二四〇 平瓶

双環耳付

一個

平瓶ハ正シク訓メバひたいかめニシテ平居瓶ノ意ナリ。

二四七 横盆

素焼

尾張國海東郡諸古村大字諸桑字錢龜發掘

一個

二四六 高坏

素焼

一個

二四八 脚付盆

素焼

一個

二四九 埴

素焼

一個

二五〇 盆

素焼

一個

石器時代遺物

日本太古ノ住民ノ一タル石器時代人民ノ作りタル利器其他ノ石器ナリ。石器時代トハ太古石器ヲ使用セシ時代ニシテ其人種ノ日本人ト異ナリタルモノナルコトハ明カナルモ髓ニ何人種ナリトノコトハ未ダ云フヲ得ズ。最モ似タルハ現存極北地方住民例セバ点すきも一ノ如キ者ナリ。(故理學博士坪井正五)

郎氏解説抄録、以下同シ)

一五五 錘石 下總國香取郡貝塚村發見

網ノ錘ナドニ用井シモノナラン。

一五六 石庖刀 筑前國嘉穂郡發見

一五七 石棒 筑前國生葉郡發見

大小精粗類品多ク其用モ一様ナラズ、コハ小ニシテ精ナルモノナリ。恐ラクハ護身器トシテ用ヒラレシモノナラン。

一五八 鏃 陸奥國中津輕郡高杉村發見

一五九 錐 陸奥國膽澤郡金崎村字二台發見

獸皮ヲ綴リテ衣服其他ノモノヲ作ル場合又ハ土器ノ破レタルヲ修覆スル場合ニ錐ノ用ニ供シタリト見ユ小玉ニ孔ヲ穿ツニモ用井シ證アリ。

一六〇 石槍

五個

- (一) 羽後國雄勝郡西成瀬村大字吉野發見。
 - (二) 陸中國岩手郡瀧澤村大字鶴岡發見。
 - (三) 羽後國北秋田郡鏡子村大字畑發見。
 - (四) 陸前國遠田郡北浦村字彫壺發見。
 - (五) 陸前國遠田郡鏡嶽村大字小里小字四軒屋數發見。
- 石槍ハ武器トシテモ用井ラレ、獵具トシテモ用井ラレシナラン。おーすさりや土人ハ現ニ此ノ如キモノヲ使用ス。

一六一 扇形石匙

六個

石匙ハ形ニヨリテカク稱スレドモ、鳥獸ノ皮ヲ剥グ時ナドニ用井ルモノナリ。

一六二 木葉形石匙

九個

一六三 打製石斧 武藏國荏原郡上沼村發見

四個

打缺キテ刃ヲ作リタルヲ打製石斧トイフ。

一六四 磨製石斧

一個

研ギ磨ギテ刃ヲ作リタルヲ磨製石斧トイフ。

一八六 獨鈷石

二個

八六

獨鈷石ハ形ニヨリテ名ケタルモノニシテ一種ノ武器ナラン。

一八七 食物調理用具

一個

北海道日高國樺似郡樺似村
役場附近發見

此類ノ石器ハ形ニヨリテ石冠ト呼バルレド實ハ植物ノ實ヲツブシテ粉ヲ作り、或ハ葉根ナドヲ搗キテ食物トスルニ用井ル器具ナリ。

一八八 小玉

七個

陸奥國西津輕郡森田村石神
石器時代遺跡發見

一八九 土器

一個

常陸國稻敷郡福田發見

一九〇 土器

一個

陸奥國三戸郡和名井村發見

一九一 土器把手種類

六個

一九二 土器

一個

底面ニ網代形ノ跡アリ。製造ノ際用井タル數物ノ痕ナリ。

一九三 土器

一個

陸中國西閉伊郡宮守村字塚發見

一九四 土器

一個

下總國香取郡阿玉臺發見

一九五 土器破片(裝飾ノ種類)

三個

- (一) 土器ノ面ニ高低ヲ作りテ裝飾トシタルモノ
- (二) 原料ノ土中ニ雲母ヲ混ジテ裝飾トシタルモノ
- (三) 同上

一九六 土器破片(裝飾ノ種類)

六個

- (一) 沈模様及浮模様
- (二) 押付模様及畫キ模様
- (三) 網紐ヲ竝ベタル如キ模様
- (四) 波線ヲ畫キタル模様
- (五) 縁ノ部分ニ高マリテ設ケテ裝飾トセシモノ

八七

二五 土器破片(裝飾ノ種類)

七個

二六 土器破片(底部ノ種類)

五個

- (六) 平行線ヲ畫キタルモノ
- (一) 櫛ノ如キモノニテ線ヲ畫キタルモノ
- (二) 管ニテ突キタル跡アルモノ
- (三) 粗キ櫛ノ如キモノニテ線ヲ畫キタルモノ
- (四) 紐ヲ押付ケタル如キ跡アルモノ
- (五) 竹管ヲ割リテ撫テタルガ如キ跡アルモノ
- (六) 土ニテ紐様ノモノヲ作り指先ニテ押付ケタルガ如キモノ
- (七) 筵ノ如キモノヲ押付ケタルモノ
- (一) 壑ノ高キモノ
- (二) 壑ノ低キモノ

二七 土器ノ底部ヲ飾リタルモノ

一個
常陸國船數郡高田村椎塚發見

二八 土器破片(廢物利用)

二個

- (三) 木葉ノ跡アルモノ
- (四) 篋ニテ磨リ均シタルモノ
- (五) 網代形ノ跡アルモノ
- (一) 破損シタルヲ接ギ合ヌタメ穴ヲ穿チタルモノ
- (二) 破損シタルモノ、破レ口ヲ磨リ減ラシ、削ニシテ境ニシタルモノ

二九 貝塚發見ノ貝

八個

石器時代人民ノ食用ニ供シタル貝ノ種類ヲ示ス。

三〇 貝輪破片

一個

常陸國船數郡高田村椎塚發見
腕輪其他身體裝飾品トシテ用ヒタルモノナラン。

三一 角器

二個

鹿角製槍 (或ハ銚) 陸前國氣仙郡小友村瀬澤發見

- (一) 鹿角製槍 (或ハ銚) 陸前國氣仙郡小友村瀬澤發見
- (二) 鹿角製裝飾品 常陸國稻敷郡陸平發見

五個

骨器

- (一) 出所不詳
- (二)(四) 常陸國稻敷郡陸平發見
- (三) 常陸國稻敷郡福田發見
- (五) 常陸國稻敷郡高田村椎塚發見

瓦

陸前國遠田郡沼部村字久間發見 一個

瓦

陸前國遠田郡沼部村字小埴發見 一個

瓦

出所同上 一個

瓦

陸前國遠田郡籠嶽村字小里 一個

是等ノ土偶ハ皆石器時代ノ遺跡ヨリ發見セラレタルモノニシテ製作ノ精巧ナルアリ、粗末ナルアリ、甚シク省略シタルモノニハ頭モ手足モ判然セズ、唯土製ノ盤ノ如クニ見ユルモノアリ。斯ク形ニハ重キナ置カズシテ其意ノミチ寓シタルモノアルヨリ推測スレバ土偶類ハ小兒ノ玩具ニアラズシテ宗教上ノ偶像又

ハ守リノ類トシテ作ラレタルモノナラント考ヘラル。但シ形ノ基ク所ハ當時ノ風俗ニ在ルベケレバ信仰ニ關スル事ノ他衣服身體裝飾ノ事ヲ考フル爲メニモ、此類ノ品ハ極メテ有益ナルモノナリ。

第八室

神宮祭器 祭具

神宮祭儀用土器

七種

神宮大御饌ニ用フル土器調製ノ起源ハ、皇大神美濃國伊久良河宮ニ御遷幸ノ時、同國采女忍比賣之ヲ獻セシニ初マリ、五十鈴宮ニ御鎮座ノ後ハ、伊勢國多氣郡宇爾郷ニ居住シ、年中祭祀ノ土器ヲ調進シ、其ノ子孫世々祖業ヲ襲ヒテ神宮ニ奉仕シキ、後世幾多ノ變遷アリシモ明治十五年之ヲ復舊シ、モトノ宇爾郷ナル明星村大字養村ニ於テ、調製納入スルコト、ナレリ。

六三

御埴燒型

二個

神宮御料ノ御埴ハ、皇大神二見ニ御遷幸ノ時佐美都日女ノ獻納ニ始マリ、大若子命御汐濱竝ニ御埴

自六二七
至六三三

山ヲ定メ、其ノ山ノ木ヲ伐リテ御盥ヲ燒キ進メラレタルニ基因シ、今モ二見ノ御盥殿ニテ調進ス。即每
年夏期御盥殿ニテ水盥ヲ汲取リ、殿内ニ於テ燒キ堅メ、之ヲ荒盥ト稱シ御盥殿ニ貯藏シ、必要ニ應シテ
更ニコノ焼型ヲ以テ堅盥ニ精製シ御料ニ供ス。

六四 火鑽具

神宮忌火屋殿(御炊殿)ニ於テ神饌品ヲ調理シ奉ル時ニ用フル忌火ヲ出ス具ナリ。

六四 結燈臺

神宮祭事ニ神前ニ用ヒラル、燈火ノ具ナリ。

六五 瓶子

神宮祭事ニ神前ニ用ヒラル、燈火ノ具ナリ。

六三 簀

神宮祭事ニ神前ニ用ヒラル、燈火ノ具ナリ。

六六 耳皿

神宮祭事ニ神前ニ用ヒラル、燈火ノ具ナリ。

六八 饗膳案

神宮祭事ニ神前ニ用ヒラル、燈火ノ具ナリ。

一具

一基

一個

二個

二個

一脚

二四 柳宮

以上四點ハ神宮遷宮奉幣又ハ杵築祭等ノ節、饗膳ニ用ヒラル、モノナリ。
神宮祈年祭、神嘗祭、新嘗祭、月次祭等ニ朝廷ヨリ奉納アラセラル、幣帛ノ容器ナリ。

神宮諸祭畫圖

二四六 嘉永二年豊受大神宮遷宮式圖

一卷

二五〇 明治四十二年豊受大神宮遷宮式圖

一卷

二五二 明治四十二年皇大神宮遷宮式圖

一卷

二五三 明治四十二年皇大神宮上棟祭並宇治橋渡初圖

一卷

上棟祭ハ神宮御造替諸祭中ノ御棟木奉揚ノ祭儀ナリ。大宮司、少宮司、禰宜以下諸員及遣神宮主事、技
師、屬、技手、忌鍛治、小工等參列シ、大宮司以下諸員棟木奉揚ノ式ヲ行ヒ、庭上ノ小工千歳棟、萬歳
棟、曳々棟ト三度喚ビ、屋上ノ小工聲ニ應シテオ、ト答へ、棟木ヲ打ツコト三度、餅ヲ西北ノ方ニ投ズ。

次ニ神饌奉奠、祝詞奏進、諸員八拜ノ儀アリテ祭儀了ル。
宇治橋ハ皇大神宮域内ヲ流ル、五十鈴川ニ架セル橋ニシテ、造替ノ度毎ニ渡初ノ式ヲ行フ。先ヅ橋姫社
頭ニテ祭儀アリ。ソレヨリ渡女以下行列ヲ整ヘテ渡初ヲ行フ。渡女ハ宇治山田市及度會郡内ニ居住セル
一家三夫婦揃ヘル者ノ中ヨリ撰ビ、其子孫ハ附添トシテ、特ニ其列ニ加ハルコトヲ許サル。

四五 神宮御造營御木曳圖

二卷

御木曳トハ神宮御造營ニ當リ、古來神領ノ人民勞力ヲ献ジテ、御用材ヲ兩宮域内ニ搬入スルヲ云フ。古
皇大神宮ノ御杣ハ神路山、豐受大神宮ノ御杣ハ岡曾山ナリシガ、後世用材ノ缺乏又ハ戰亂ノ爲各地ニ變
更セラレ、近代ニ至リ兩宮共木曾山ニ定メラレタリ。

内宮御料材ハ之ヲ大湊貯木場ニ、外宮御料材ハ之ヲ宮川貯木場ニ回漕シ、先ヅ吉日ヲ選ビテ兩宮ノ御櫃
代木(御祝木)ノ奉曳式ヲ行フ。(明治二十二年度ヨリ造神宮使廳ノ手ニテ行ハル、次ニ内宮ノ御料材ハ舊
内宮領ノ町村民五十鈴川ヲ川曳シ、外宮御料材ハ舊外宮領ノ町村民中島町ヨリ之ヲ木曳車ニ積載シテ陸
上ヲ宮域ニ奉曳ス。其狀各大字又ハ町村毎ニ團體ヲナシ、夫々意匠ヲ凝ラシタル行粧ヲナシ、各人家事

ヲ願ミズ奉曳ノコトニ從フ、實ニ神都ノ一偉觀タリ。

四六 皇大神宮元日御饌神事御攝奉什圖

一卷

神宮文庫

皇大神宮元日御饌神事參准圖

豐受大神宮元日鮎饗神事御攝奉仕並參進圖

明治四年神宮改制以前ノ祭儀圖ナリ。

四七 皇大神宮舊式祭典圖 (第十二)

一卷

神宮司廳

明治四年神宮改制以前ノ祭儀、贊海神事、御贊濱行事ヨリ興玉祭ニ至ル三圖ヲ收ム。

四八 豐受大神宮舊式祭典圖 (第十四)

一卷

神宮司廳

明治四年神宮改制以前ノ祭儀、濱出神事途中行裝圖ヨリ懸稅奉仕圖ニ至ル八圖ヲ收ム。

九 御田祭圖

一卷

皇大神宮御常供田御田植祭ノ圖ナリ。此神事ハ内宮ハ四鄉村大字桶部、外宮ハ岡本町宮崎ナル御常供田
ニテ、毎年五月吉日ヲトシ行ハレシガ明治四年廢セラレ。

二〇三 御木曳幟

一旒

九六

寛政度神宮御造營材奉曳ノ節山田二俣町ノ使用セシモノ、(神宮御造營御木曳圖解説参照)

神宮寶物

二〇四 御^{オシ}鞆^{トモ}

一枚

寛正三年御遷宮奉納ノ古神寶ナリ。

二〇七 御太刀殘缺

三柄

明治二年皇大神宮東御敷地、内玉垣北御門長ノ方ヨリ發掘ノ古神寶ナリ。

二〇八 皇大神宮政印^{シヤウイン}

印文 内宮政印、鈕形鷄頭
方一寸八分

一顆

天武天皇白鳳年間、福宜瓶木田神主石門ノ解狀ニヨリテ、神祇官上奏シ、宣旨ヲ賜リテ鑄下セラル、即皇大神宮政印ノ始ナリ、其ノ後承暦三年二月二十一日、外院ノ炎上ニ際シ燒失セシヲ以テ、同平七月二十三日原形ニ模シテ再ヒ鑄下セラル。

二〇九 皇大神宮政印^{シヤウイン}筒

一個

承暦三年七月二十三日政印ト共ニ寄進セラレタルモノナリ。

二一〇 豐受大神宮政印

印文 豐受宮印、鈕形鷄頭
方二寸

一顆

貞觀五年九月十三日、福宜度會神主眞水ノ解狀ニ依リテ、神祇官上奏シ、内宮政印ノ例ニ准ジテ鑄下セラル。

二一一 豐受大神宮政印^{シヤウイン}筒

一個

元木造ナリシヲ、承徳二年十二月二十六日銅ニ改鑄セラル。側面ニ「宣旨奉造承徳二年^元十二月二十六

日^庚下彫メリ。

二一二 大神宮司印

印文 大神宮印、鈕形鷄頭
方二寸一分

一顆

天平十一年二月二十三日、神祇官ノ上奏ニ依リテ始メテ之ヲ鑄下セラル。寶龜三年宮司ノ宿館燒亡シ其ノ災ニ罹レリ。後仁壽三年十一月三日、大神宮司大中臣朝臣伊度人ノ解狀ヲ以テ、神祇官ヨリ上奏シ齊

九七

衡二年八月十日、原形ニ模シテ再ビ鑄下セラル。

三三 大神宮司印筒

一個

元木製ナリシヲ、長徳四年五月二十日銅ニ改鑄セラレ。側面ニ「大神宮司印筒元木彫也而大司公忠長徳四年五月二十日鑄改於銅」下彫メリ。

三五 内宮文殿額

文曰 文殿

一面

文殿ハ齋館内ニ設ケラレ古代ハ神書記録文書等ヲ藏メラル、庫藏ナリシガ、後ニハ別ニ神庫ヲ創立シ、文殿ハ神官ノ講習討論或ハ記録勘考ノ場所ニアテラレタリ。明治維新後廢セラル。

三八 貝 桶

一對

慶長十二年新上東門院ヨリ、内宮子良館ニ賜ハリシモノニシテ、貝ノ歌ハ宸筆ヲ始メ女院、時ノ禪閣關白大臣等、高貴ノ人ノ書カレタルモノナリトゾ。子良トハ、朝夕ノ大御饌、其ノ他祭典ニ奉仕セシ、童女ノコトナリ。

三三 御田扇

二本

○德川將軍奉納太刀身

豐受大神宮御常供田御植植神事ノ田舞ニ用ヒシモノナリ。(九、御田祭圖ノ録參照)

三一 一文字作

長二尺三寸二分、刃文丁字、在銘一文字
將軍家光皇大神宮ニ奉納

三七 來國行作

(無銘)長二尺三寸二分、刃文半ヨリ上廣直刃下丁字
將軍家光豐受大神宮ニ奉納

三八 吉信作

長二尺七寸四分、刃文直刃丁字交裏樋アリ、在銘吉信
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三九 康光作

長二尺四寸七分、刃文坂亂、在銘康光
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

四〇 長光作

長二尺六寸一分五厘、刃文直刃、在銘長光
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

四一 助長作

長二尺三寸九分、刃文直刃小丁字交、彫物梵字、在銘助長
將軍家綱豐受大神宮ニ奉納

四二 長光作

長二尺三寸七分五厘、刃文大丁字、在銘長光
將軍家綱吉豐受大神宮ニ奉納

四三 友成作

長二尺四寸五分、刃文小亂交坂心フクラノ内ニ重刃、在銘友成
將軍家綱吉豐受大神宮ニ奉納

四四 守次作

長二尺五寸三分、刃文直刃沸付、在銘守次
將軍家綱吉豐受大神宮ニ奉納

三三 俊忠作
 三三 國俊作
 三三 守次作
 三三 助久作
 三三 正恒作
 三三 吉包作
 三三 景依作
 三三 國永作
 三三 國俊作
 三三 助吉作

長二尺四寸九分五厘、刃文直刃亂交ル、在銘俊忠
 將軍家宣皇大神宮ニ奉納
 長二尺五寸三分、刃文直刃佩裏ニ坂亂交ル、在銘來國俊
 將軍家宣豐受大神宮ニ奉納
 長二尺二寸七分五厘、刃文亂五ノ目交リ表裏樋二筋、在銘守次
 將軍家繼皇大神宮ニ奉納
 長二尺四寸二分五厘、刃文丁子、在銘助久
 將軍家繼豐受大神宮ニ奉納
 長二尺三寸二分、刃文直刃亂交ル、在銘正恒
 將軍吉宗皇大神宮ニ奉納
 長二尺二寸九分五厘、刃文直刃、在銘吉包
 將軍吉宗皇大神宮ニ奉納
 長二尺三寸六分、刃文小亂直刃交ル表裏樋アリ、表銘備前國住人左近將監景依造
 裏銘永仁六年十月十日、將軍吉宗皇大神宮ニ奉納
 長二尺五寸一分、刃文小丁子、在銘國永
 將軍吉宗豐受大神宮ニ奉納
 長二尺三寸七分五厘、刃文直刃足入佩裏中央ニ丁子アリ、在銘來國俊
 將軍吉宗豐受大神宮ニ奉納
 長二尺三寸六分、刃文丁子、在銘助吉
 將軍家重皇大神宮ニ奉納

三三 守友作
 三三 助宗作
 三三 信房作
 三三 國光作
 三三 遠近作
 三三 雲生作
 三三 正廣作
 三三 忠廣作
 三三 是一作
 三三 國正作

長二尺五寸一分、刃文直刃中央ヨリ下丁子心ニ亂ル、在銘守友
 將軍家重豐受大神宮ニ奉納
 長二尺三寸九分、刃文坂足丁子鑄ニカアル、表銘一文字、裏銘助宗
 將軍家治皇大神宮ニ奉納
 長二尺三寸五分、刃文直刃小亂交ル、在銘信房
 將軍家治皇大神宮ニ奉納
 長二尺四寸三分、刃文直刃亂交ル、在銘國光
 將軍家治豐受大神宮ニ奉納
 長二尺三寸二分五厘、刃文丁子、在銘遠近
 將軍家齊皇大神宮ニ奉納
 長二尺三寸四分五厘、刃文直刃、在銘雲生
 將軍家齊豐受大神宮ニ奉納
 長二尺二寸四分五厘、刃文直刃、在銘肥前國河内大掾藤原正廣
 將軍家慶皇大神宮ニ奉納
 長二尺三寸五分、刃文亂、在銘肥前國住近江大掾藤原忠廣
 將軍家慶豐受大神宮ニ奉納
 長二尺三寸五分、在銘藤原正廣
 將軍家定皇大神宮ニ奉納
 長二尺三寸七分、欄刃五ノ目、在銘藤原國正
 將軍家茂皇大神宮ニ奉納

四四 康繼作

長二尺三寸三分五厘、刃文五ノ目亂、在銘康繼
將軍家茂豐受大神宮ニ奉納

四五 元繼作

長二尺三寸五分、刃文丁子、在銘元繼
將軍慶喜豐受大神宮ニ奉納

四二 太刀

一腰

四三 太刀

一腰

褐銅作金覆輪菊居紋、切羽四枚金、鍮金著、目釘金、將軍德川家光皇大神宮ニ奉納、身ハ別ニ藏ム

四四 太刀

一腰

褐銅作金覆輪雲形居紋、切羽四枚金、鍮金著、目釘金、將軍德川吉宗皇大神宮ニ奉納、身ハ別ニ藏ム

四七 太刀

一腰

刀身長二尺三寸六分五厘、刃文直刃佩表物打ニ足入、無銘、折紙大和千手院、拵褐銅作金覆輪桐居紋、切羽四枚金、鍮金著、目釘金著、京都所司職伊賀守松平忠周皇大神宮ニ奉納

第九室

神宮撤下御物

○皇大神宮御料

四〇 小紋紺綾御衣

一領

四一 紫羅御裳

一腰

四二 御帶

二條

四三 屏形紋御被

一條

四四 小窠錦御被

一條

四五 錦御枕

一基

四六 新羅組

一條

- 三三 錦御履 ニシキノオンクフ 一兩
 - 三二 錦御襪 ニシキノオンシムクフ 二兩
 - 三一 御櫛筒 オシクシツツ 一合
 - 三〇 御鏡 オシカガミ 一面
 - 二九 御白玉 オシシラタマ 一連
 - 二八 御衣宮 オシヨイミヤ 一合
 - 二七 奉座楊宮 ハクゼヤサミヤ 一合
- 以上明治三十三年臨時遷宮調進同四十二年撤下
- 三五 玉繩御太刀 タマキノオンタチ 一柄
 - 三四 須我利御太刀 スガリノオンタチ 一柄

- 三三 金銅造御太刀 コンドウゾウノオンタチ 一柄
- 三二 鷄尾御琴 トビノオノオンコト 一面

以上明治二十二年式年遷宮調進同二十二年撤下

○豊受大神宮御料

- 三三 緋錦御衣 ヒノニシキノギヨイ 一領
- 三二 吳錦御衣 クニニシキノギヨイ 一領
- 三一 小綾帛御衣 コアヤハクノギヨイ 一領
- 三〇 吳錦御裳 クニニシキノオンモ 一腰
- 二九 紫御帶 ムラサキノオンオビ 一條
- 二八 刺車錦御被 サシクルマノニシキノモフスマ 一條

四 紫御髻結 ムラサキノオンモトユヒ
 三 錦御枕 ニシキノオンマクラ
 三 錦御鞆 ニシキノオンクワ
 三 錦御襪 ニシキノオンシタウヅ

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

三 第一御太刀
 三 第二御太刀
 三 第三御太刀
 三 御鞍 オンハクバ
 三 御白馬形 オンハクバガタ

以上明治二十二年式年遷宮調進同二十二年撤下

一條
 一基
 一兩
 一兩
 一柄
 一柄
 一柄
 一具
 一匹

○皇大神宮別宮荒祭宮御料 アラマツリノミヤ

三 白葛御鞆 シロツツラノオンユキ
 三 御吳床 オンゴシヤウ
 三 菅御笠 スゲノオンカサ
 三 青毛御彫馬 アヲケノオンエリウマ

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

二腰
 一具
 一枚
 一匹

○皇大神宮別宮月讀宮御料 ツキヨミノミヤ

四 金銅造御太刀 コンドウゾクリノオンタチ
 四 銅黒造御太刀 ドウコクゾクリノオンタチ
 四 梓御弓 アツサノオンユミ

二柄
 一柄
 二張

- 四二 革御靴 カハノオン ヌギ 二腰
- 四三 蒲御靴 ガマノオン ヌギ 一腰
- 四四 鶴斑毛御彫馬 フルブチダノオン エリウマ 一匹
- 四五 御楯 タテ 二枚
- 四六 御鉢 ホコ 二竿
- 四七 御鈴 スズ 一口
- 四八 陶猿頭形御硯 スエノサルガシラガタノオン スマリ 一面
- 四九 金銅御火桶 コンドウノオン ヒチケ 一口
- 五〇 御大筒 オホケ 二口
- 五二 御鞍 クラ 一具

五三 御鏡 カガミ

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

一面

○皇大神宮別宮伊佐奈彌宮御料

- 五六 錦御鞆 ニシキノオン ヌギ 一腰
- 五七 金銅御麻笥 コンドウノオン チケ 二口
- 五八 金銅御栴 コンドウノオン カセヒ 二枚
- 五九 金銅御櫛 コンドウノオン タリ 二基
- 六〇 御木絡練 オンチカケ 二基
- 六一 御簍 ワケ 二枚
- 六二 五色御吹玉 コシキノオン フキダマ 一連

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

○皇大神宮別宮瀧原竝宮御料

五二 銀銅御櫛ギンドウノオンタトリ

五三 銀銅御麻笥ギンドウノオンマタケ

五六 銀銅御杖ギンドウノオンカセヒ

五七 御荒筥オンアラバコ

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

○皇太神宮別宮伊雜宮御料

五八 金銅御高機コンドウノオンタカハタ

明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

一基

一口

一枚

一合

一具

○皇大神宮別宮風日祈宮御料

五九 御鞆オントモ

明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

一枚

○豊受大神宮別宮多賀宮御料

五〇 御櫛笥オンクシケ

明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

一合

○豊受大神宮別宮土宮御料

五一 御胡籙オンヤナヅヒ

五二 御鞆オントモ

以上明治二十二年式年遷宮調進同四十二年撤下

二腰

一腰

大正十一年八月十日訂正五版印刷
大正十一年八月十五日訂正五版發行

神宮司廳所管

徵古館農業館

印刷所 山田津大山支店印行

徵古館農業館發行

徵古繪葉書 各輯六枚

五組

(第一輯第二輯) 風俗人形

(第三輯) 上古遺物・神都關係品

(第四輯) 金屬古器・輿車船舶

(第五輯) 神宮寶物

倉田山風景繪葉書 三色版四枚

一組

農業館陳列品要覽

四六版二段組九一頁解說附 上編下編

二冊

神都沿革史料目錄

菊版一九〇頁解說附 寫真版插入 第一編第二編

二冊

即位禮
大嘗祭 資料陳列目錄

四六版七四頁解說附 寫真版插入

一冊

373
96 =

終